

授業科目	保健医療学特論 Advanced Health Sciences			担当教員	○千葉 仁志 富永 壮 川口 美喜子
年次・学期	1 年次・前期			選択・必修	必修
授業形態	講義			単位数	2 単位
研究科ディプロマ・ポリシー	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5
	○	○			
授業目的	本特論は、社会環境や自然環境と健康の関わりについて正しい知識を学び、将来の保健医療体制を考えるための基礎力を身につけることを目的とする。保健医療の歴史、現況、課題について講義形式で学び、プレゼンテーションやディスカッションを交えて保健医療体制の動向と将来像を展望する。本科目では保健医療について総論的に学修するが、引き続き共通科目群（保健医療システム論、疫学と保健統計、ヘルスアセスメント）、専門科目群の健康支援増進領域（健康増進支援学特論、健康食生活学特論）、健康再生支援領域（健康再生支援学特論、保健医療教育学特論）で各論的な学修を行うための基礎を形成することができる。 （オムニバス方式／全 15 回）				
到達目標	1. 健康の概念の変遷について説明できる。 2. 健康指標に基づいて健康水準を理解し、健康を阻害するリスク要因を説明できる。 3. 生活習慣の現状と課題、生活習慣病予防に向けた社会の動向や方策について説明できる。 4. 環境汚染及び自然環境・生態系の変動（地球温暖化を含む）と健康の関係について説明でき、今後の動向と対策について考察できる。 5. 我が国の主要疾患の疫学情報を踏まえて、予防の現況と課題、対策について説明できる。 6. 我が国の保健医療体制の成立過程を、社会的変化や医学・関連学問の歴史に関連づけて説明でき、海外の保健医療体制と比較することができる。 7. 保健医療に関わる職種の種類、発生の歴史について説明でき、今後のチーム医療・地域包括ケアにおいて看護専門職および栄養士・管理栄養士が果たすべき役割やそのための教育システムの在り方について考察できる。 8. 国際保健医療における現状と課題を説明でき、地球的規模の課題にどのように取り組むかについて考察できる。 9. 保健医療における ICT 技術の導入状況について説明でき、今後の方向性について考察できる。 10. チーム医療の在り方の改変、医療施設の改編、保健医療制度の改変、ICT 技術の活用、保健医療人材の国際化などに見られるような、現代医療システムを変革し、保健医療をパラダイム・シフトさせる提言や事例について情報収集するとともに自らも考案し、スライドにまとめてプレゼンテーションできる。				
テキスト	毎回の授業で配布するレジュメ、基礎から学ぶ健康管理概論 改訂第 5 版（南江堂）				
参考書	国民衛生の動向（厚生統計協会）、国民の福祉と介護の動向（厚生統計協会）、厚生労働省ホームページ				
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準		
	レポート	60	レポート：授業で出される課題（千葉 4 題、富永 1 題、川口 1 題）について、レポート（ワード A4 版で 2 頁程度の分量）を作成し、次回の授業までに出题教員にメールで提出する。課題の要求に対して複数文献を調査・引用し、情報を収集・分析し、自らの意見を加えて（5 点満点）、言語表現上（3 点満点）、及び小論文としての形式上（2 点満点）も適切であるかを評価する（各レポート 10 点満点、計 60 点満点）。 授業態度：各授業において自らの意見（各 5 点）を積極的に述べる学生や、熱心に質問（各 5 点）をする学生に対しては、授業態度について評価点を与える（全 15 回で最大 20 点満点）。 プレゼンテーション：15 回目の授業では、学生はスライド発表を行うが、ディプロマ・ポリシーに則り、①保健医療の仕組みと看護・栄養の関係を総合的に理解し、それを自己の専門分野に活かす能力（10 点）、②自己の専門分野および関連分野に関する高度で体系的な知識・技術を修得し、保健医療の実践に活用・展開する能力（5 点）、③他者と連携・協働し、課題解決に向けて主体的に対応できる能力（5 点）、について評価する（計 20 点満点）。		
	授業態度	20			
	プレゼンテーション	20			
履修上の留意事項	消極的な姿勢で本科目の授業に参加しても、評価基準の関係で高い評価を得ることができません。毎回、積極的な姿勢で授業参加してください。				
回数担当	学習の主題	授業内容		事前・事後学習	
1 千葉	健康の概念	古代から現代に至る健康の概念の変遷、西洋と東洋の健康観の比較、WHO の提唱する健康観について学ぶ。		事前に配布するレジュメ、テキスト・参考書の指定頁、各自で収集したネット情報などを用いて予習 2 時間、復習 2 時間の学習を行う。	
2 千葉	健康指標	保健統計指標、生命表、傷病統計、リスク要因、生活習慣、健康寿命、健康増進について学ぶ。		事前に配布するレジュメ、テキスト・参考書の指定頁、各自で収集したネット情報などを用いて予習 2 時間、復習 2 時間の学習を行う。	

回数 担当	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
3 千葉	現代医療と保健医療体制	公衆衛生・予防医学・臨床医学の歴史、我が国の医療保険制度の概要を学ぶ。	事前に配布するレジュメ、テキスト・参考書の指定頁、各自で収集したネット情報などを用いて予習2時間、復習2時間の学習を行う。
4 千葉	環境汚染と健康	我が国の公害の歴史、健康被害の状況、現代の環境汚染について学ぶ。	事前に配布するレジュメ、テキスト・参考書の指定頁、各自で収集したネット情報などを用いて予習2時間、復習2時間の学習を行う。
5 千葉	自然環境・生態系と健康	自然災害の健康への影響、生態系の変動と健康の関係、地球温暖化の実態と健康への影響	事前に配布するレジュメ、テキスト・参考書の指定頁、各自で収集したネット情報などを用いて予習2時間、復習2時間の学習を行う。
6 千葉	我が国の主要疾患と予防（1）	がん、循環器疾患、代謝性疾患等の概要を整理し、予防策の現況と課題を学ぶ。	事前に配布するレジュメ、テキスト・参考書の指定頁、各自で収集したネット情報などを用いて予習2時間、復習2時間の学習を行う。
7 千葉	我が国の主要疾患と予防（2）	運動器疾患、精神疾患・認知症等の概要を整理し、予防策の現況と課題を学ぶ。	事前に配布するレジュメ、テキスト・参考書の指定頁、各自で収集したネット情報などを用いて予習2時間、復習2時間の学習を行う。
8 千葉	社会保障制度と健康	社会保障の概念、我が国の社会保障の概要、医療制度、福祉制度について学ぶ。	事前に配布するレジュメ、テキスト・参考書の指定頁、各自で収集したネット情報などを用いて予習2時間、復習2時間の学習を行う。
9 千葉	保健医療に関わる関係職種役割とチーム医療	保健医療に関わる関係職種の種類、歴史、現在の保健医療における役割、チーム医療との関連について学ぶ。	事前に配布するレジュメ、テキスト・参考書の指定頁、各自で収集したネット情報などを用いて予習2時間、復習2時間の学習を行う。
10 千葉	保健医療と国際化、保健医療への先端技術の導入	地球的規模の健康課題、感染症、飢餓、国際的支援、ICTの保健医療への応用について学ぶ。	事前に配布するレジュメ、テキスト・参考書の指定頁、各自で収集したネット情報などを用いて予習2時間、復習2時間の学習を行う。
11 富永	保健医療と看護専門職	我が国の保健医療福祉の変遷、看護師・保健師・助産師の歴史、看護専門職の保健医療における専門性と役割・機能	事前に配布するレジュメ、テキスト・参考書の指定頁、各自で収集したネット情報などを用いて予習2時間、復習2時間の学習を行う。
12 富永	地域包括ケアと看護専門職	地域包括ケアと保健医療福祉、住民を含めてのチーム連携協働の現況と課題、地域包括ケア推進のための看護専門職の役割・機能、保健医療福祉および教育システムの将来像	事前に配布するレジュメ、テキスト・参考書の指定頁、各自で収集したネット情報などを用いて予習2時間、復習2時間の学習を行う。
13 川口	保健医療と管理栄養士	管理栄養士の職域専門性と保健医療における役割	事前に配布するレジュメ、テキスト・参考書の指定頁、各自で収集したネット情報などを用いて予習2時間、復習2時間の学習を行う。
14 川口	地域共生・地域の支え合いに向けた管理栄養士の取り組み	地域共生社会に向けた地域包括的支援と保健医療、チーム連携の現況と課題、管理栄養士の参加・協働と保健医療システムの将来像	事前に配布するレジュメ、テキスト・参考書の指定頁、各自で収集したネット情報などを用いて予習2時間、復習2時間の学習を行う。
15 千葉	保健医療のパラダイム・シフト	保健医療システムの改革、あるいは保健医療のパラダイム・シフトについての提言を各学生が情報収集し、各自が考察し、スライドによるプレゼンテーションを行い、ディスカッションにて更に考察を深める。	各自で情報収集、考察、スライド作成、プレゼンテーションの予行演習を行う（2時間以上）。不明な点があれば事前に教員と打ち合わせを行う。授業終了後、プレゼンテーションとディスカッションの内容を含めた「まとめ」のレポートを提出する（2時間以上）。

授業科目	保健医療システム論 Health Care System			担当教員	○千葉 昌樹 大西 浩文 伊藤 新一郎
年次・学期	1 年次・後期			選択・必修	選択
授業形態	演習			単位数	1 単位
研究科ディプロマ・ポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
	○	○			
授業目的	わが国における保健医療行政の役割と仕組み、行政の基盤となる関係法規の歴史と現在を体系的に教授するとともに、福祉行政についても教授する。これらからの、国および北海道における保健医療福祉体制の構築過程の特徴、現状と課題、地域包括ケアを含む政策と地域活動の実際、さらに保健・医療・福祉の多職種連携の実際について教授する。				
到達目標	1. 保健医療福祉行政の役割と仕組と関係法規・制度について説明できる。 2. 社会・経済格差と健康格差の関連性について、その背景を踏まえて説明できる 3. 国および北海道における保健医療体制の構築過程の特徴について説明できる。 4. 北海道の地域包括ケアシステムと地域活動の実際から課題を明らかにできる 5. 地域疫学的調査の実際から、北海道の生活習慣病危険因子の特徴と予防について説明できる。 6. 福祉行政の実施体制と課題を説明できる。 7. 保健医療福祉システムの構築・推進に向けた地域における課題について、公衆衛生学、医療社会学的、地域福祉の観点も踏まえて考察できる。 8. 保健・医療・福祉における多職種連携の実際から、自職種の課題について考察できる。				
テキスト	なし				
参考書	国民衛生の動向（厚生統計協会）、国民の福祉の動向（厚生統計協会）、厚生労働省ホームページ これからの保健医療福祉行政論 第3版（日本看護協会出版会）				
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準		
	レポート	30	1) 各教員の評価方法		
	提出物	50	非常勤講師：課題レポート、提出物、ディスカッション 大西：提出物、ディスカッション 伊藤：提出物、ディスカッション		
	ディスカッション	20	2) 評価項目の基準		
			課題レポート：テーマと記述内容の一貫性、全体の論理性、文章表現、私見の具体性等 提出物：課題と内容の一貫性、論理的構成、文章表現、考察等 ディスカッション：事前学習・授業内容を踏まえた内容、参加状況等		
履修上の留意事項	1. 保健医療福祉に関する動向や法制度の成立などに関する情報を、新聞などのツールを活用して常時把握する。 2. レポート・課題のテーマ、提出方法は科目のガイダンス時、及び各担当教員の第1回目に説明する。				
回数担当	学習の主題	授業内容		事前・事後学習	
1 千葉	保健医療福祉行政の歴史と変遷	1. 保健医療福祉行政の理念と目標 2. 保健医療福祉行政の歴史とその背景 3. 保健医療福祉行政の現在		事前学習：参考書、多様な情報源を活用し予習を行う。（1時間） 事後学習：授業内容を復習し、文献を活用して自己の考えを整理し課題を明確にする。（1時間）	
2 千葉	保健医療行政の役割と仕組み	1. 保健医療活動を推進する行政のしくみと機能 2. 保健医療財政のしくみ 3. 公衆衛生行政のしくみと機能 4. 地域保健の機能 5. 保健医療の計画・実施・評価		事前学習：シラバスを読み、参考書、多様な情報源を活用し予習を行う。（1時間） 事後学習：授業内容を復習し、文献を活用して自己の考えを整理し課題を明確にする。（1時間）	
3 千葉	保健医療行政に関する関係法規（1）	1. 健やか親子21、母子保健、高齢者保健、精神保健、健康づくり 2. 医療保険 3. 介護保険 4. 年金		事前学習：シラバスを読み、参考書、多様な情報源を活用し予習を行う。（1時間）、 事後学習：授業内容を復習し、文献を活用して自己の考えを整理し課題を明確にする。（1時間）	
4 千葉	保健医療行政に関する関係法規（2）	1. 障がい者保健 2. DV防止法・子育て支援法等 3. 難病対策 4. 感染症対策 5. 災害対策		事前学習：シラバスを読み、参考書、多様な情報源を活用し予習を行う。（1時間） 事後学習：授業内容を復習し、文献を活用して、自己の考えを整理し課題を明確にする。（1時間）	

回数 担当	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5 千葉	社会・経済格差と健康格差	1. 貧困・格差の社会経済的定義と現状の動向 2. 社会経済的要因と健康の関係 3. 健康格差に関する我が国の保健医療福祉政策	事前学習：シラバスを読み、参考書、多様な情報源を活用し予習を行う。(1時間) 事後学習：授業内容を復習し、文献を活用して、自己の考えを整理し課題を明確にする。(1時間)
6 千葉	保健医療体制の構築過程	1. 保健医療体制の構築過程 2. 国における保健医療体制の構築過程の現状と課題 3. 北海道における保健医療体制の構築過程の現状と課題	事前学習：シラバスを読み、参考書、多様な情報源を活用し予習を行う。(1時間) 事後学習：授業内容を復習し、文献を活用して、自己の考えを整理し課題を明確にする。(1時間)
7 千葉	保健医療システムの構築・推進に向けた地域における課題	1. 保健医療システムの構築・推進に向けた地域における課題の分析方法 2. 保健医療システムの構築・推進に向けた地域における課題の実際	事前学習：シラバスを読み、参考書、多様な情報源を活用し予習を行う。(1時間) 事後学習：授業内容を復習し、文献を活用して、自己の考えを整理し課題を明確にする。(1時間)
8 千葉	北海道の地域包括ケアシステムと地域活動の実際	1. 国内での地域活動の実践事例 現状を課題 2. 道内での地域活動の実践事例 現状と課題 3. 2030年、2040年、2054年問題と地域包括ケアシステム	事前学習：シラバスを読み、参考書、多様な情報源を活用し予習を行う。(1時間)、 事後学習：授業内容を復習し、文献を活用して、自己の考えを整理し課題を明確にする。(1時間)
9 大西	地域疫学研究による生活習慣病危険因子の解明 (1)	地域住民コホート研究の実際	事前学習：コホート研究の特徴について調べる。(1時間) 事後学習：講義内容をまとめる。(1時間)
10 大西	地域疫学研究による生活習慣病危険因子の解明 (2)	地域住民コホート研究により明らかとなった生活習慣病危険因子	事前学習：生活習慣病の危険因子について調べる。(1時間) 事後学習：講義内容をまとめる。(1時間)
11 大西	多職種連携による地域での重症化予防の実際 (1)	糖尿病性腎症重症化予防対策の考え方と実際	事前学習：糖尿病性腎症重症化予防プログラムに目を通す。(1時間) 事後学習：講義内容をまとめる。(1時間)
12 大西	多職種連携による地域での重症化予防の実際 (2)	ICT を活用した多職種連携の地域連携クリティカルパスの実際	事前学習：地域連携クリティカルパスについて調べる。(1時間) 事後学習：講義内容をまとめる。(1時間)
13 大西	食と健康に関する地域での多職種連携の取り組み	食品中の機能性成分の効果検証と地域での効果的な摂取方法の普及啓発	事前学習：食と健康に関する地域での取り組みについて調べる。(1時間) 事後学習：提出物（課題）の作成。(2時間)
14 伊藤	福祉行政の実施体制と課題	福祉行政の法的根拠と実施体制及び課題について学ぶ。	事前学習：厚生労働省 HP 内の関係箇所の内容を確認しておくこと。(1時間) 事後学習：講義内容をまとめる。(1時間)
15 伊藤	地域における保健医療と福祉の連携および包括的支援の現状と課題	地域における保健医療と福祉の連携および包括的支援の現状と今後の課題について学ぶ。	事前学習：厚生労働省 HP 内の関係箇所の内容を確認しておくこと。(1時間) 事後学習：提出物（課題）の作成。(2時間)

授業科目	チーム医療と組織管理 Medical Team and Organizational Management		担当教員	○岡本 智子 近藤 明代 上田 順子	
年次・学期	1 年次・後期		選択・必修	必修	
授業形態	講義		単位数	2 単位	
研究科ディプロマ・ポリシー	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5
	○	○			
授業目的	近年、医療分野では複雑・高度化した医学的管理のもとでケアの質的向上が求められ関係職種間のチーム連携および対象者中心の多様な組織づくりを進める能力が求められている。 また、医療分野だけではなく保健分野においても、地域における効果的なケアシステム構築が推進され、関係機関・職種だけでなく、その地域に暮らす住民が参加する組織づくりが不可欠である。そこで、本科目では、チーム医療およびチームマネジメントの基礎知識を、チーム力を高めるために必要な技術について教授する。そして様々な場面におけるチームの事例を通して、看護・栄養の組織管理の実際と特徴、課題について検討する。さらに、住民主体の保健活動を促進するための組織づくりと展開方法の基礎理論、住民と組織間等の連携・協働や地域ケアシステムの構築についても教授する。このことからひとつひとつのチームマネジメントを通して職種間の連携や協働のあり方が、地域につながり、医療と保健の効果的なケアの質的向上に働きかけられることの課題について検討する。				
到達目標	1. チーム医療の定義と理念を説明できる。 2. チーム医療とチームマネジメントの関係、保健医療の背景と重要性を説明できる。 3. チームマネジメントの原則と必要な技術を説明できる。 4. 病院（施設）のチーム機能に応じたそれぞれのチームマネジメントの特徴を説明できる。 5. 医療施設における看護・栄養の各部門の組織的特徴と管理・運営方法、課題について説明できる。 6. 看護・栄養の各部門のマネジメントと他部門との連携の実際と課題について説明できる。 7. 地域における保健活動を促進するための組織を住民参画で創ることの重要性を説明できる。 8. 組織活動の特徴とその展開方法を説明できる。 9. 住民・関係職種・機関との連携・協働のあり方と、地域ケアシステムの構築の特徴を説明できる。				
テキスト	なし				
参考書	篠田道子 「多職種連携を高めるチームマネジメントの知識とスキル」 医学書院 小藺真知子「医療・福祉現場のコミュニケーション」（三輪書店） 井部俊子監修勝原裕美子編集看護管理学習テキスト第3版第4巻「組織管理論」（日本看護協会出版会） スティーブンP.ロビンズ他「新版組織行動のマネジメントー入門から実践へ」（ダイヤモンド社） 細田満和子「チーム医療とは何か」第2版（日本看護協会出版会） 星旦二「地域保健スタッフのための「住民グループ」のつくり方・育て方」（医学書院） 岩永俊博「地域づくり型保健活動の考え方と進め方」（医学書院） 上野千鶴子他「ニーズ中心の福祉社会へ当事者主権の次世代福祉戦略 シリーズケアをひらく」（医学書院） 中西正司他「当事者主権」（岩波書店） 安梅勅江「エンパワメントのケア科学 当事者主体チームワーク ケアの技術」（医歯薬出版株式会社） 安梅勅江「コミュニティエンパワメントの技法 当事者主体のあたらしいシステムづくり」（医歯薬出版株式会社） 鎌田華乃子「コミュニティ・オーガナイズング」（英治出版） 今村晴彦他「コミュニティのちから 遠慮しがちなソーシャル・キャピタルの発見」（慶應義塾大学出版会） 古川久敬「集団とリーダーシップ」（大日本図書） 中村陽吉「集団の心理」（大日本図書）				
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準		
	課題レポート	30	課題レポート：記述内容が到達目標のテーマに一致したものか、また全体の論理性、文章表現、私見の具体性等を評価する。		
	提出物	50			
	授業時のパフォーマンス	20	提出物：課題の提出状況、課題と内容の一貫性、私見が記載されているかを評価する。		
履修上の留意事項			パフォーマンス：参加態度、意見の内容等を評価する。		
			* 評価基準の詳細はガイダンス時に説明します。		
回数担当	学習の主題	授業内容		事前・事後学習	
1 岡本	チーム医療の理念とチームマネジメントとの関係	ガイダンス 1. チーム医療の定義と理念 2. 保健医療におけるチーム医療の背景 3. チーム医療とチームマネジメントの関係		事前：シラバスに目を通し授業の流れを把握してくる（1時間）。 事後：授業内容をもとに整理をしてくる（2時間）。	
2 岡本	チームマネジメントの基礎知識（その1）	チームマネジメントとは 求められる背景と活用について		事前：テキストもとに予習をする（1時間）。 事後：授業内容をもとに、違いや特徴を整理する（2時間）。	

回数 担当	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
3 岡本	チームマネジメントの基礎知識(その2)	医療・福祉分野に求められるリーダーシップとメンバーシップについて	事前：テキストもとに予習をする（1時間）。 事後：授業内容をもとに、リーダーシップの違いや特徴を整理する（2時間）。
4 岡本	チームマネジメントを高める技術	チーム作りのカンファレンス・ファシリテーション技術について	事前：テキストもとに予習をする（1時間）。 事後：授業内容をもとに、チームマネジメントを向上させるスキルについて整理する（2時間）。
5 岡本	病院（施設）・チームの機能に応じたチームマネジメント（その1）	1. 亜急性期・回復期・急性期病床・長期養 施設におけるチームマネジメント 2. 退院支援におけるチームマネジメント	事前：テキストをもとに予習をする（1時間）。 事後：授業内容をもとに、違いや特徴を整理する（2時間）。
6 岡本	病院（施設）・チームの機能に応じたチームマネジメント（その2）	コンサルテーション型チーム	事前：テキストをもとに予習をする（1時間）。 事後：授業内容をもとに、さまざまなチームマネジメントの違いや特徴を整理する（2時間）。
7 岡本	病院（施設）・チームの機能に応じたチームマネジメント（その3）	災害時における保健・医療・福祉チームマネジメント	事前：テキストをもとに予習をする（1時間）。 事後：授業内容をもとに、災害時におけるチームマネジメントをまとめる。（2時間）。
8 岡本	医療施設における栄養部門の組織管理	1. 組織デザイン 2. 組織の意思決定 3. チーム医療と連携	事前：参考書をもとに予習をする（1時間）。 事後：授業内容を復習する（2時間）。
9 岡本	組織マネジメントの実際と課題	1. 栄養部門のマネジメント 2. 他部門との連携 3. 専門職能団体の活用	事前：参考書をもとに予習をする（1時間）。 事後：授業内容を復習する（2時間）。
10 上田	医療施設における看護部門の組織管理	1. 組織デザイン 2. 組織の意思決定 3. チーム医療と連携	事前：参考書をもとに予習をする（1時間）。 事後：授業内容を復習する（2時間）。
11 上田	組織マネジメントの実際と課題	1. 看護部門のマネジメント 2. 他部門との連携 3. 専門職能団体の活用	事前：参考書をもとに予習をする（1時間）。 事後：授業内容を復習する（2時間）。
12 近藤	住民の力量形成と地域づくり	1. 住民参画 2. 住民参加	事前：参考書をもとに予習をする（1時間）。 事後：授業内容をもとに、住民参加の重要性とグループ活動の特徴をまとめる（2時間）。
13 近藤	住民の力量形成とグループ活動	1. グループの種類とグループの形成 2. 集団の特性・グループ・ダイナミクス	事前：参考書をもとに予習をする（1時間）。 事後：授業内容をもとに、住民参加の重要性とグループ活動の特徴をまとめる（1時間）。
14 近藤	地域の健康問題の組織的な解決	1. 組織の特徴 2. 地域組織活動の展開 3. ソーシャル・キャピタルの力 4. コミュニティエンパワメント	事前：参考書をもとに予習をする（1時間）。 事後：授業内容をもとに、地域組織活動の特徴をまとめる（1時間）。
15 近藤	地域ケアシステムの構築	1. 地域ケアシステムとその構築のプロセス 2. 住民・関係職種・機関との連携・協働と地域ケアシステムの構築 3. 実際の活動事例の分析	事前：参考書をもとに予習をする（1時間）。 事後：授業内容をもとに、地域ケアシステムの構築と専門職の役割をまとめる（2時間）。

授業科目	保健医療と倫理 Health Care and Ethics			担当教員	○大日向 輝美 旗手 俊彦
年次・学期	1 年次・後期			選択・必修	必修
授業形態	講義			単位数	2 単位
研究科ディプロマ・ポリシー	DP 1	DP2	DP 3	DP 4	DP 5
	○			○	
授業目的	保健医療における倫理的基盤、生命倫理・医療倫理・臨床倫理に関する学修を前提に、専門職倫理の原則と重要概念、国際的宣言や医師・看護職・管理栄養士等の倫理綱領を学修し、保健医療専門職に求められる倫理の本質と課題について考察する。さらに対象者・家族、同職種・多職種、組織・社会との間で生じる倫理的問題、倫理的意思決定を導く基本的なアプローチ法を教授する。これらをもとに事例演習において、倫理的問題を明確化して解決策を導出する過程を学び、倫理的判断を行うための思考過程の基本を修得する。加えて、研究遂行に必要なとなる研究倫理、教育者に求められる教育倫理について教授する。				
到達目標	1. 人間社会における倫理、保健医療における倫理とは何か、自己の考えを表明できる。 2. 生命倫理・臨床倫理・医療倫理の異同とそれらに関わる諸概念と基礎理論、倫理的な課題を説明できる。 3. 保健医療の倫理を追求するための理論と意思決定を導く代表的な方法論を学修し、提示された事例に適用できる。 4. 保健医療に関わる現代的・典型的な倫理問題に関して、授業での学びをもとに私見を述べることができる。 5. 保健医療専門職に適用される倫理指針や倫理綱領の意義や変遷を学修し、それらの活用方法を提案できる。 6. 研究倫理、教育倫理の基本事項を説明できる。				
テキスト	なし				
参考書	鰐坂真、亀山純生他「人間とはなにか」（青木書店） 牧野広義「人間と倫理」（青木書店） 亀山純生「人間と価値」（青木書店） 穴水恒雄、木下英夫、中易一郎他「現代の倫理」（青木書店） 服部健二他編著「医療倫理学の ABC」第 4 版（メヂカルフレンド社） 平山正実、朝倉輝一編著「ケアの生命倫理」（日本評論社） 宮坂道夫「医療倫理学の方法」（医学書院） 丸山マサ美編著「医療倫理学」（中央法規） 浅野篤、小西恵美子他編「倫理的に考える医療の論点」（日本看護協会出版会） 浅井篤、大北全俊編「少子高齢社会の『幸福』と『正義』—倫理的に考える『医療の論点』」（日本看護協会出版会） トム・L・ビーチャム他（永安幸正他監訳）「生命倫理学」（成文堂） トム・L・ビーチャム（立木教夫、永安幸正監訳）「生命医学倫理のフロンティア」（行人社） 清水哲郎「医療現場に臨む哲学」（風間書房） 大谷藤郎「医の倫理と人権—共に生きる社会へ」（医療文化社） ダニエル・F・チャンプリス（浅野祐子訳）「ケアの向こう側」（日本看護協会出版会） アン・J・デービス（小西恵美子監訳）「看護倫理を教える・学ぶ」（日本看護協会出版会） サラ・T・フライ（片田範子他訳）「看護実践の倫理」第 4 版（日本看護協会出版会） 玉腰暁子、武藤香織「医療現場における調査研究倫理ハンドブック」（医学書院） その他、授業中に紹介する。				
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準		
	ワークシート		大日向：70％		
	プレゼンテーション		ワークシート（25％）：事前・事後学習の取組みに関し、提出状況と記述内容から評価する。		
	ディスカッション		プレゼンテーション（10％）：テーマについて複数文献から情報を収集し、自らの意見を含めて発表する。プレゼンテーションの準備と内容、質疑応答等を含めて評価する。		
	課題レポート		ディスカッション（10％）：発言内容・参加姿勢から評価する。 課題レポート（15％）：保健医療の倫理に関わるテーマを設定し論述する。詳細は授業最終日に提示する。問題設定・論理構成・体裁・表現等から評価する。		
履修上の留意事項	旗手：30％ 授業の予習・参加態度（10％）、レポート（20％）				
履修上の留意事項	・下記のスケジュールは学習の進捗状況によって調整・変更する場合がある。 ・授業では必ず討議を行うため、積極的に参画すること。また、事前学習への取組みは当然であるが、事後に授業での学びを振り返り、理解を深めていく姿勢が望まれる。 ・教員からのフィードバックとルーブリックを用いた自己評価等により、自己課題を明確にしながら学修する姿勢が求められる。				
回数担当	学習の主題	授業内容		事前・事後学習	
1 大日向	ガイダンス	科目概要と進め方の説明、自己学修目標の紹介		事前（1 時間）：①シラバスを熟読し、確認事項を明確化する。②自己学修目標を設定し、ワークシートに記載する。	

回数 担当	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
2 旗手	プロフェッショナル イズム	医師を中心とした職業倫理を学ぶ	事前学習：事前配布資料の閲読、課題レポートの作成 事後学習：配布資料の復習、課題レポートの再作成
3 旗手	臨床倫理	臨床倫理のメソッド、臨床倫理コンサルテ ィングの実際を学ぶ	事前学習：事前配布資料の閲読、課題レポートの作成 事後学習：配布資料の復習、課題レポートの再作成
4 旗手	研究倫理	研究倫理に関する法令、ガイドラインを学ぶ	事前学習：事前配布資料の閲読、課題レポートの作成 事後学習：配布資料の復習、課題レポートの再作成
5 旗手	保健医療と倫理	判断能力の低下した患者への対応や医療・福 祉連携、地域連携をめぐる倫理問題の現状と 解決方法を学ぶ	事前学習：事前配布資料の閲読、課題レポートの作成 事後学習：配布資料の復習、課題レポートの再作成
6 大日向	人間社会における倫 理	講義：倫理とは何か（倫理の概念、倫理と道 徳、倫理と法、倫理と価値） ディスカッション：提示された問いから人間 社会における倫理の本質を探る	事後（1 時間）：授業内容を踏まえ、「倫理とは何か」に ついて自分の意見を記載する（ワークシート）。
7 大日向	保健医療における倫 理	講義：保健医療にとって倫理とは何か（保健 医療実践の起源と倫理的含意、保健医療専門 職の役割・責任、保健医療に関わる宣言等） ディスカッション：提示された問いから保健 医療における倫理の本質を探る	事後（1 時間）：授業内容を踏まえ、「保健医療にとつ ての倫理」について自分の意見を記載する（ワークシート）。
8 大日向	保健医療の倫理に向 き合うための基礎的 知識 1	講義：倫理の理論と方法（原則の倫理、徳の 倫理、ケアリングの倫理） ディスカッション：提示された問いからこれ らの理論に内在する諸問題を探る	事後（1 時間）：授業で学んだ各理論の説明し、それらが 適用される状況を考える（ワークシート）。
9 大日向	保健医療の倫理に向 き合うための基礎的 知識 2	講義：保健医療の倫理に関わる基本問題（パ ターナリズム、プライバシーと守秘義務、イン フォームド・コンセント等） ディスカッション：提示された問いから保健 医療に関わる倫理の問題を探る	事前（1 時間）：事前に示された課題に取組み、発表資料 を作成する。 事後（1 時間）：授業内容を要約し、1 つの基本問題に関 する私見を述べる（ワークシート）。
10 大日向	保健医療専門職に求 められる倫理と倫理 指針・綱領	講義：保健医療専門職の倫理の起源と変遷、 倫理指針・綱領の意義と問題等 ディスカッション：各職種の倫理綱領の特 徴、綱領の意義と問題を探る	事前（1 時間）：自職種の倫理綱領を精読する。 事後（1 時間）：提示された問いに取組み、倫理綱領に関 する私見を述べる（ワークシート）。
11 大日向	倫理的意思決定を導 く方法論 1	講義：ナラティブアプローチ 事例検討：ナラティブアプローチを用いた意 思決定過程	事前（0.5 時間）：事前配布資料を読む。
12 大日向	倫理的意思決定を導 く方法論 2	講義：系統的アプローチ 事例検討：系統的アプローチを用いた事例演 習	事前（0.5 時間）：事前配布資料を読む。
13 大日向	保健医療に内在する 諸問題 1	事例検討：患者の弱さと自律尊重、患者対専 門職の意見対立、医療資源の配分	事後（1 時間）：授業で扱った問題に関し、提示された問 いに沿って考察する（ワークシート）。
14 大日向	保健医療に内在する 諸問題 2	事例検討：専門職対組織の方針対立、高齢者・ 小児をめぐる倫理問題	事後（1 時間）：授業で扱った問題に関し、提示された問 いに沿って考察する（ワークシート）。
15 大日向	保健医療専門職の教 育に関わる倫理	講義：保健医療専門職の養成教育と倫理問 題、教育者に求められる倫理 ディスカッション：教育場面で生じやすい倫 理問題と改善方策を考える	事前（0.5 時間）：事前配布資料を読む。 事後（1 時間）：教育に関わる倫理に関する私見を述べる （ワークシート）。

授業科目	研究法概説 Introduction to Research Methods			担当教員	服部ユカリ
年次・学期	1 年次・前期			選択・必修	必修
授業形態	講義			単位数	2 単位
研究科ディプロマ・ポリシー	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5
	○			○	
授業目的	保健医療分野における看護学・栄養学に係る研究の意義・目的を明らかにし、量的・質的研究方法の種類と特徴、研究のプロセスを解説する。具体的には研究テーマの明確化、文献検索の方法、文献の批判的検討、研究デザインの種類と特徴、分析方法等、研究に必要な論理的思考や研究の基本となる知識を概説する。研究計画書の作成過程とその基本についても講義する。また、研究の倫理指針、特に保健医療分野における人を対象とする研究において遵守すべき点について教授する。				
到達目標	1. 保健医療分野における看護学・栄養学に係る研究の意義・目的を説明できる。 2. Clinical Question から Research Question への精練の必要性を説明できる。 3. 量的・質的研究方法の代表的研究デザインの種類と特徴、分析方法について説明できる。 4. 研究に必要な文献検索ができる。 5. 保健医療分野およびその関連領域の文献の批判的検討ができる。 6. 研究計画書に必要な要件について説明できる。 7. 研究の倫理指針、および保健医療学分野の研究において遵守すべき倫理について説明できる。				
テキスト	近藤克則「研究の育て方、2018」(医学書院)				
参考書	井下千以子「思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版、2019」(慶應義塾大学出版会) 日本病態栄養学会編：コメディカルのための論文の書き方の基礎知識、メディカルレビュー社 Bailey D.M.、朝倉隆司監訳：保健・医療のための研究法入門－発想から発表まで－、協同医書出版社 日本栄養改善学会監修：論文の書き方・まとめ方、第一出版 近藤潤子監訳「看護研究 原理と方法 第2版、2010」(医学書院) 黒田裕子他監訳「バーンズ&グローブ 看護研究入門、第7版、2015」(エルゼビア) 中木高夫他「質的看護研究の基礎づけ、2018」(看護の科学社)				
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	発表	50	1) 発表：発表用資料の構成・表現スタイル、内容、発表姿勢、質疑応答の適切性 2) 討議への参加：ディスカッションへの参加状況、討議姿勢 3) 課題レポート：「研究プロセスの概要および自身の研究の段階と課題」について、テーマと記述の一貫性、全体の論理性、文章表現、自己分析等		
	討議への参加	20			
	課題レポート	30			
履修上の留意事項	主題について事前に学修し発表する方法で行います。自己の修得状況を評価・確認し、各自に必要な基礎的能力を修得するよう留意してください				
回数担当	学習の主題	授業内容		事前・事後学習	
1	研究とは何か	研究と研究ではないものとの違い、研究の概念と意義		事前：研究の定義についてテキストや資料を用いて予習する (2 時間)。 事後：授業内容を整理し記録する (2 時間。)	
2	良い研究とは	良い研究とはどのような研究か		事前：良い研究についてテキストや資料を用いて予習する (2 時間)。 事後：授業内容を整理し記録する (2 時間。)	
3	Research Question の精練	Clinical Question から Research Question に精練することの意義		事前：Research Question についてテキストや資料を用いて予習する (2 時間)。 事後：授業内容を整理し記録する (2 時間。)	
4	文献検討の目的と方法	文献検討の目的と文献検索方法		事前：文献検討についてテキストや資料を用いて予習する (2 時間)。 事後：授業内容を整理し記録する (2 時間。)	
5	研究デザイン・量的研究	保健医療学系の研究で用いられる研究デザインのうち、量的研究の方法と特徴について		事前：量的研究についてテキストや資料を用いて予習する (2 時間)。 事後：授業内容を整理し記録する (2 時間。)	
6	研究デザイン・質的研究	保健医療学系の研究で用いられる研究デザインのうち、質的研究の方法と特徴について		事前：質的研究についてテキストや資料を用いて予習する (2 時間)。 事後：授業内容を整理し記録する (2 時間。)	

回数 担当	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7	研究の精度とトライアンギュレーション	研究の精度を高めるための方法としてのミックスメソッドやトライアンギュレーションの考え方	事前：トライアンギュレーションについてテキストや資料を用いて予習する（2時間）。 事後：授業内容を整理し記録する（2時間）。
8	対象者とデータ収集方法	研究テーマに相応しい対象者の選択およびサンプルサイズについて	事前：対象選択方法および必要対象者数についてテキストや資料を用いて予習する（2時間）。 事後：授業内容を整理し記録する（2時間）。
9	研究倫理	人を対象とした研究倫理指針、各自の関連学会の倫理指針をととした研究倫理のあり方	事前：人を対象とした研究倫理指針と各自の関連学会の倫理指針を用いて予習する（2時間）。 事後：授業内容を整理し記録する（2時間）。
10	分析の基礎と考察	量的研究と質的研究のデータ分析方法の概要および研究結果をどのように考察するかについて	事前：量的研究と質的研究のデータ分析方法および考察の目的についてテキストや資料を用いて予習する（2時間）。 事後：授業内容を整理し記録する（2時間）。
11	研究計画書の書き方	研究計画の立案方法と計画書に必要な事項	事前：研究計画書についてテキストや資料を用いて予習する（2時間）。 事後：授業内容を整理し記録する（2時間）。
12	論文の書き方と読み方（クリティークの方法）	論文に記述すべき内容と論文のクリティーク基準	事前：量的研究と質的研究の論文に載せるべき内容およびクリティークの基準についてテキストや資料を用いて予習する（2時間）。 事後：授業内容を整理し記録する（2時間）。
13	量的研究論文のクリティーク	自身の研究テーマに関連する量的研究の原著論文について概要とクリティーク結果をプレゼンテーションし、討議をととして研究について理解を深める	事前：自身の研究テーマに関連する量的研究の原著論文を選択し、概要とクリティークを行う（2時間）。 事後：授業内容を整理し記録する（2時間）。
14	質的研究論文のクリティーク	自身の研究テーマに関連する質的研究の原著論文について概要とクリティーク結果をプレゼンテーションし、討議をととして研究について理解を深める	事前：自身の研究テーマに関連する質的研究の原著論文を選択し、概要とクリティークを行う（2時間）。 事後：授業内容を整理し記録する（2時間）。
15	まとめ	これまでの学習内容を基に研究のプロセスにおいて重要なことおよび自身の課題について発表し、討論することをととして研究についての理解を深める	事前：これまでの学習内容を基に研究のプロセスにおいて重要なことおよび自身の課題についてまとめる（2時間）。 事後：これまでの授業内容を復習し整理し、「研究プロセスの概要および自身の研究の段階と課題」のレポート作成（2時間）。

授業科目	統計学 Statistics			担当教員	三瀬 敬治
年次・学期	1 年次・前期			選択・必修	選択
授業形態	演習			単位数	1 単位
研究科ディプロマ・ポリシー	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5
	○			○	
授業目的	保健医療系研究法の基礎として、集団を対象とした問題について、因果関係解明とエビデンス構築の方法、問題解決に必要なデータ収集・分析に関わる統計的技法を学び、エビデンスに基づく評価研究や量的研究の成果を批判的に分析、検討する能力を培う。				
到達目標	1. 記述統計の基礎知識を理解できる。 2. 推測統計の基礎知識を理解できる。 3. 統計的分析法の基礎知識を理解できる。 4. SPSS を用いてデータを操作できる。 5. SPSS を用いて統計分析を実行できる。 6. SPSS で分析した結果を説明できる。				
テキスト	柳井久江著「4Steps エクセル統計 第 5 版」(星雲社)				
参考書	1. 対馬栄輝「SPSS で学ぶ医療系データ解析第 2 版」(東京図書) 2. 対馬栄輝「SPSS で学ぶ医療系多変量データ解析第 2 版」(東京図書) 3. 畠慎一郎他「SPSS 超入門」(東京図書) 4. 大木秀一「看護統計学入門第 2 版」(医歯薬出版)				
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験		目標の到達状況を複数回のレポートにより評価する。知識の基本的な理解(目標 1〜3)、SPSS の操作の正確さ(目標 4,5)、分析結果を読み取る力(目標 6)を問う課題に対する解答の採点結果により測る。		
	レポート	100			
	小テスト				
	提出物				
	その他				
履修上の留意事項	授業で習った内容が十分な理解となるように復習し、学んだデータ分析を正しく実行できるように SPSS の操作を繰り返し練習すること。なお、SPSS は大学院学生研究室の PC で使用することができる。				
回数担当	学習の主題	授業内容		事前・事後学習	
1	統計学について	本科目の構成と指針、そして各回の位置づけを説明する。続いて、統計学の歴史、目的と有用性、データ分析法の種類などを解説する。		事前：シラバスを確認する (0.5 時間)。 事後：講義内容を復習する (0.5 時間)。	
2	SPSS について	SPSS の使い方を解説し、SPSS を使用したデータの読み込み・入力・保存、加工・変換のやり方を指導する。		事前：シラバスを確認する (0.5 時間)。 事後：講義内容を復習する (0.5 時間)。	
3	記述統計について	尺度、記述統計量について解説し、SPSS を使用した記述統計量の算出、度数分布表の作成、グラフの表示のやり方を指導する。		事前：シラバスを確認する (0.5 時間)。 事後：講義内容を復習する (0.5 時間)。	
4	推測統計について	母集団と標本、母数、正規分布について説明し、区間推定と仮説検定について解説する。また、SPSS を使用した区間推定の求め方を指導する。		事前：シラバスを確認する (0.5 時間)。 事後：講義内容を復習する (0.5 時間)。	
5	平均の差の検定	平均の差の検定 (t 検定) について解説し、SPSS を使用したその検定のやり方を指導する。		事前：シラバスを確認する (0.5 時間)。 事後：講義内容を復習する (0.5 時間)。	
6	分散分析 (1)	一元配置の分散分析について解説し、SPSS を使用したその分析のやり方を指導する。		事前：シラバスを確認する (0.5 時間)。 事後：講義内容を復習する (0.5 時間)。	
7	分散分析 (2)	二元配置の分散分析について解説し、SPSS を使用したその分析のやり方を指導する。		事前：シラバスを確認する (0.5 時間)。 事後：講義内容を復習する (0.5 時間)。	
8	多重比較	多重比較について解説し、SPSS を使用した多重比較のやり方を指導する。		事前：シラバスを確認する (0.5 時間)。 事後：講義内容を復習する (0.5 時間)。	

回数 担当	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
9	ノンパラメトリック 検定	パラメトリックとノンパラメトリックの違いについて概説する。また、ウィルコクソンの符号付順位検定とマンホイットニーの U 検定について解説し、SPSS を使用したそれらの分析のやり方を指導する。	事前：シラバスを確認する（0.5 時間）。 事後：講義内容を復習する（0.5 時間）。
10	分割表の検定	独立性の検定（ χ^2 検定）について解説し、SPSS を使用したその検定のやり方を指導する。	事前：シラバスを確認する（0.5 時間）。 事後：講義内容を復習する（0.5 時間）。
11	分割表の作成	SPSS を使用した調査データから分割表（クロス集計表）を作成するやり方を指導する。	事前：シラバスを確認する（0.5 時間）。 事後：講義内容を復習する（0.5 時間）。
12	相関分析	相関分析について解説し、SPSS を使用したその分析のやり方を指導する。	事前：シラバスを確認する（0.5 時間）。 事後：講義内容を復習する（0.5 時間）。
13	回帰分析（1）	単回帰・重回帰分析について解説し、SPSS を使用したそれらの分析のやり方を指導する。	事前：シラバスを確認する（0.5 時間）。 事後：講義内容を復習する（0.5 時間）。
14	回帰分析（2）	ロジスティック回帰分析について解説し、SPSS を使用したその分析のやり方を指導する。	事前：シラバスを確認する（0.5 時間）。 事後：講義内容を復習する（0.5 時間）。
15	因子分析	因子分析について解説し、SPSS を使用したその分析のやり方を指導する。	事前：シラバスを確認する（0.5 時間）。 事後：講義内容を復習する（0.5 時間）。

授業科目	疫学と保健統計 Epidemiology and Health Statistics			担当教員	齋藤 健
年次・学期	1 年次・後期			選択・必修	選択
授業形態	演習			単位数	1 単位
研究科ディプロマ・ポリシー	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5
	○			○	
授業目的	保健医療分野における疫学と保健統計、社会調査の各概念、調査方法の目的と特徴等の基本を整理し、各研究方法と統計処理等について演習を通じて習得する。				
到達目標	1. 人口集団に出現する健康関連の事象の頻度と分布、その要因や条件を説明できる。 2. 健康関連の事象の分析結果から人口集団の問題点とその対策について説明できる。 3. 保健医療での社会調査の意義・目的、方法、データの統計処理、解析方法と特徴を説明できる。 4. 質問紙の作成方法を理解し、実際のデータを用い統計処理方法を展開できる。 5. 産業保健統計の統計処理、解析方法と特徴を理解し、保健医療における産業看護データ解析に活用できる。 6. 学校保健統計の統計処理、解析方法と特徴を理解し、保健医療における栄養のデータ解析に活用できる。				
テキスト	特に指定しない。授業で資料を配布する。				
参考書	毎回の授業で指示する。				
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準		
	プレゼンテーション	30	プレゼンテーション：情報収集・分析の妥当性、発表資料の完成度、発表内容の論理性、私見の具体性 課題レポート：提出状況及び内容の一貫性、論理性、私見の具体性 討議への参加：提示内容の具体性、質疑応答の論理性、討論姿勢		
	課題レポート	50			
	討議への参加	20			
履修上の留意事項	主体的な姿勢で授業に臨むこと				
回数担当	学習の主題	授業内容		事前・事後学習	
1	保健統計 1	人口静態統計の概要、人口静態統計に使われる指標および最新の保健統計データの内容を解説し、人口問題の現状と将来の展望について教授する		事前：最新の国勢調査のデータについての学習 事後：課題に対するレポートの作成	
2	保健統計 2	人口動態統計の概要、人口動態統計に使われる指標および最新の保健統計データの内容を解説し、人口動態の現状と課題、将来の展望について教授する		事前：最新の出生、死亡等の統計データについての学習 事後：課題に対するレポートの作成	
3	保健統計 3	傷病統計や健康・栄養統計の統計データの内容を解説し、現状と課題、将来の展望について教授する		事前：傷病統計や健康・栄養統計についての学習 事後：課題に対するレポートの作成	
4	保健統計 4	授業で提示する模擬人口集団の情報から、人口静態統計および人口動態統計で利用される様々な指標の値を求め、得られたデータから人口集団の特徴について解説する		事前：人口静態統計および人口動態統計の指標と解析方法の学習 事後：課題に対するレポートの作成	
5	保健統計論文のプレゼンテーション	学生に保健統計に係る選択したテーマについて複数文献に当たって情報を収集・分析させ、自らの意見を含めて発表させる。		事前：論文の講読、プレゼンテーション資料の作成 事後：討論を踏まえたプレゼンテーション内容の改善	
6	疫学 1	疫学の概要、疫学に使われる指標の意味と求め方を解説し、その応用例について教授する		事前：疫学の指標に関する学習 事後：課題に対するレポートの作成	
7	疫学 2	疫学研究方法の種類とそれぞれの使用目的と求め方および質問紙の作成方法について解説し、その応用例について教授する		事前：疫学研究方法の種類に関する学習 事後：課題に対するレポートの作成	
8	疫学 3	疫学の指標、疫学研究方法に関する問題を提示し、学生に解答させた後に解説を行う		事前：疫学の指標、疫学研究方法の確認 事後：課題に対するレポートの作成	

回数 担当	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
9	疫学4	学生に興味ある疫学研究論文を検索、内容を検討させ、自らの意見を含めて発表させる	事前：論文の講読、プレゼンテーション資料の作成 事後：討論を踏まえたプレゼンテーション内容の改善
10	産業保健統計1	職業に関連して起きる様々な疾病の産業保健統計データから職業性疾病の現状と職業性疾病の予防対策について教授する	事前：職業性疾病の種類についての学習 事後：課題に対するレポートの作成
11	産業保健統計2	職場の作業環境管理、作業管理の概要とその統計データの意味と職場の傷害や疾病の予防について解説する	事前：職場の作業環境管理、作業管理についての学習 事後：課題に対するレポートの作成
12	産業保健統計3	職場の健康管理の概要とその統計データの意味と職場の疾病の予防対策について解説する	事前：職場の健康管理についての学習 事後：課題に対するレポートの作成
13	産業保健統計4	学生に産業保健に関連する疫学研究論文を検索、内容を検討させ、自らの意見を含めて発表させる	事前：論文の講読、プレゼンテーション資料の作成 事後：討論を踏まえたプレゼンテーション内容の改善
14	学校保健統計	学校保健に係る傷病統計や健康・栄養統計の統計データの内容を解説し、現状と将来の展望について教授する	事前：学校保健についての学習 事後：課題に対するレポートの作成
15	まとめ	学生に自らの研究で用いる（予定）統計処理法についてその利点と欠点について発表させ、より良い研究方法や統計処理法の選択について解説する	事前：プレゼンテーション資料の作成 事後：統計処理法等の再確認

授業科目	ヘルスアセスメント Health Assessment			担当教員	○首藤 英里香 岡本 智子 大日向 輝美
年次・学期	1 年次・後期			選択・必修	必修
授業形態	演習			単位数	1 単位
研究科ディプロマ・ポリシー	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5
	○	○			
授業目的	看護職は、身体的・精神的・社会的な統合体である人間の健康を生活面から支える役割を担っている。一方、栄養職（管理栄養士）は、栄養と食の観点から人々の健康を支え、個々の対象に最適な栄養ケアを行う。人間の生活にとって食は基本要素のひとつであり、心身の健康は食を介して摂り込まれる栄養に大きく左右される。また、栄養と食は生活と健康のありように影響を受け、健康そのものを規定する要因となる。このように、健康・生活・栄養は看護実践・栄養実践の基軸となる概念であり、看護職と栄養職は共有可能な役割機能を担う専門職としての特性を有している。それゆえ、栄養と食を扱う栄養学の知見は看護職の実践力を、生活に着眼して健康にかかわる看護学の知見は栄養職の実践力を向上させ、健康増進・健康再生支援の質に寄与することが期待できる。そこで本科目では、看護職と栄養職の連携・協働に必要な基盤的能力の向上を目指し、健康・生活・栄養に関するアセスメントや専門的支援にかかわる知識と技術を栄養学・看護学の観点から学習するとともに、自己の役割機能と他方の専門性に関する理解を深める。このことにより、対象者の健康状態や日常生活、生活環境等に関し、多職種の視点を統合したアセスメントを行い、実践に活用することで個別的状況に即したケアが可能になると考える。看護職は、栄養ケアプロセスと栄養ケアマネジメントの概要と手順を栄養学的観点から学ぶとともに看護アセスメントの知識と技術を栄養学との関連で意味づけ、アセスメントの質向上をはかる。栄養職は、人間の生活行動に着眼した看護アセスメントと実践への活用を学ぶとともに、栄養アセスメント等に関する知識と技術を看護学との関連で発展させ、栄養ケアの充実につなげることとする。				
到達目標	1. 看護学と看護実践、栄養学と栄養実践の目的・対象・方法、看護職・栄養職の担う役割機能の特徴と相違性について説明できる。 2. 看護過程、栄養ケアプロセスの概念を学び、看護実践・栄養実践の特徴について説明できる。 3. 看護職・栄養職が実施するアセスメントの特徴をとらえ、自職種の実践への活用可能性について考察できる。 4. 統合体である人間の健康を生活の観点から把握するためのヘルスアセスメントの概念（意義・内容と方法）について説明できる。 5. 看護実践・栄養実践の充実化をはかるため、健康・生活・栄養に関するヘルスアセスメントの知識と技術を学修し、以下の目標を達成できる。 5-1. ゴードンの機能的健康パターンを用いたアセスメントの意義、各パターンと健康・生活・栄養の関連について説明できる。 5-2. 健康歴聴取、全身のアセスメントの目的、内容・方法、実際への適用を説明できる。 5-3. 食物の摂取、消化・吸収、排泄、代謝等、栄養と食に深くかかわる諸機能のアセスメントの目的、内容・方法、実際への適用を説明できる。 5-4. セルフケア能力、精神・心理社会的側面のアセスメントの目的、内容・方法、実際への適用を説明できる。 6. 看護職と栄養職との連携・協働のあり方について、ディスカッションをとおして考察できる。				
テキスト	なし				
参考書	F・ナイチンゲール（湯楨ます他訳）「看護覚え書―看護であること、看護でないこと」第7版（現代社） V・ヘンダーソン（小玉香津子他訳）「看護の基本となるもの」（日本看護協会出版会） D・E・オレム（小野寺杜紀訳）「オレム看護論―看護実践における基本概念」第4版（医学書院） 山内豊明「フィジカルアセスメントガイドブック―目と手と耳でここまでわかる」第2版（医学書院） 山内豊明「フィジカルアセスメントワークブック―身体仕組みと働きをアセスメントにつなげる」（医学書院） 日野原重明編「フィジカルアセスメント―ナースに必要な診断の知識と技術」第4版（医学書院） 稲葉佳江編著「成人・高齢者看護のためのヘルスアセスメント」（メヂカルフレンド社） 稲葉佳江・大日向輝美編著「看護ヘルスアセスメント」（メヂカルフレンド社） 上原誉志夫・明渡陽子・田中弥生・岡本智子編著「臨床栄養学 栄養治療の基礎と実際」（光生館） 鈴木純子「臨床栄養学 栄養ケアプロセス演習―傷病者個々人の栄養ケアプラン作成の考え方」（同文書院） 木戸康弘・中村丁次・小松龍史「栄養管理プロセス」（第一出版）				
	評価方法	評価割合（％）	評価基準		
評価方法・基準	事前・事後学習に関わる提出物	50	提出物：提出状況と記述内容より事前・事後学習への取り組みをループリックにより評価する。		
	課題レポート	30	課題レポート：授業での学修に基づくテーマを設定し論述したレポートに対し、問題設定・論理構成・体裁・表現等についてループリックを用いて評価する。		
	演習時のパフォーマンス	20	演習時のパフォーマンス：演習での学習姿勢等に関し、ループリックを用いて評価する。		
履修上の留意事項	・学習の進捗状況等により学習内容、進度を変更する場合がある。 ・学習状況に関する自己評価と教員からのフィードバックをもとにリフレクションし、自己課題を明確化する姿勢が求められる。				

回数 担当	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1 首藤・ 岡本・ 大日向	看護職・栄養職が行 うアセスメントの特 徴	事例演習：看護職・栄養職それぞれに必要なと 考えるアセスメント内容を検討・発表し、職 種によるアセスメントの特徴を理解する。	事後（1 時間）：看護職・栄養職が行うアセスメントの特 徴から、自職種に活用可能な観点を考える。
2 大日向	看護学・看護実践の 目的・対象・方法、 看護職の担う役割機 能	講義：ナイチンゲール看護論に基づく看護 学・看護実践の目的、ヘンダーソン看護論に 基づく看護・看護職の役割機能、オレム看護 論に基づくセルフケアへの支援、等	事前（1 時間）：配布資料を読んで感じた疑問を質問とし てまとめる。 事後（1 時間）：学習内容を整理し、感想を記載する。
3 大日向	看護過程と看護診断	講義：看護過程の意義と構成要素、看護診断 の意義と特徴	事後（1 時間）：学修内容を整理し感想を記載する。
4 岡本	栄養学・栄養実践の 目的・対象・方法、 栄養職の担う役割機 能	講義：栄養アセスメントの必要性と栄養管理 の流れの実際	事前（1 時間）：関連する参考書籍を読む。 事後（1 時間）：学習内容を整理し、感想を記載する。
5 岡本	栄養ケアプロセスと 栄養ケアマネジメント の概念	講義：栄養ケアプロセスの概念、栄養ケアマ ネジメントとの相違と手順	事前（1 時間）：関連する参考書籍を読む。 事後（1 時間）：学習内容を整理し、感想を記載する。
6 大日向	ヘルスアセスメント の概念と対象把握の 基本的枠組	講義：ヘルスアセスメントの意義と内容、対 象の統合的把握のための枠組（ゴードンの機 能的健康パターン）、基本的アセスメント技 術	事前（1 時間）：配付資料を読んで感じた疑問を質問とし てまとめる。 事後（1 時間）：学習内容を整理し感想を記載する。
7 首藤	健康歴の聴取と全身 のアセスメント	講義：健康歴の聴取、全身のアセスメントの 意義と内容・方法 演習：健康歴の聴取と全身のアセスメントの 実際	事前（1 時間）：事前配付資料を読み、演習での自己目標 を設定する。健康歴の聴取と全身のアセスメントに関す る課題に取り組む。 事後（0.5 時間）：学習内容を整理し、自己目標を評価す る。
8 首藤	セルフケア能力、精 神・心理社会的面に 関するアセスメント	講義：食物摂取にかかわるセルフケア能力、 精神・心理社会的面に関するアセスメントの 意義と内容・方法	事後（0.5 時間）：学習内容を整理し、感想を記載する（ワ ークシート）。
9 首藤	食物の摂取、消化・ 吸収、排泄にかかわ るアセスメント 1	講義：認知、摂食（咀嚼・嚥下等）、消化・吸 収、排泄（排尿・排便・水分出納）にかかわ るアセスメントの意義と内容・方法	事前（0.5 時間）：提示された学習課題に取り組む。 事後（0.5 時間）：学習内容を整理し、感想を記載する。
10 首藤	食物の摂取、消化・ 吸収、排泄にかかわ るアセスメント 2	演習：頭頸部（頭部・頸部・目・耳・鼻・口）、 神経、肺・胸郭、腹部のアセスメントの実際	事前（1 時間）：事前配付資料を読み、演習での自己目標 を設定する。提示された学習課題に取り組む。 事後（0.5 時間）：学習内容を整理し、自己目標を評価す る。
11 首藤	身体組成・身体活動 にかかわるアセスメ ント	講義：身体組成・身体活動にかかわるアセス メントの意義と内容・方法 演習：筋・骨格、外皮にかかわるアセスメン トの実際	事前（1 時間）：事前配付資料を読み、演習での自己目標を 設定する。提示された学習課題に取り組む。 事後（0.5 時間）：学習内容を整理し、自己目標を評価する。
12 岡本	栄養ケアプロセスの 実際 1 （慢性期疾患）	演習：栄養ケアプロセスの手順に沿って栄養 アセスメントを行い、栄養診断に基づいて栄 養計画を立案する。併せて、診療録の記載、 栄養情報提供書の作成につなげる。	事前（1 時間）：配布された事例を検討する。 事後（2 時間）：学習内容を整理し、課題レポートに取り 組む。
13 岡本	栄養ケアプロセスの 実際 2 （急性期疾患）	演習：栄養ケアプロセスの手順に沿って栄養 アセスメントを行い、栄養診断に基づいて栄 養計画を立案する。併せて、診療録の記載、 栄養情報提供書の作成につなげる。	事前（1 時間）：配布された事例を検討する。 事後（2 時間）：学習内容を整理し、課題レポートに取り 組む。
14 岡本	栄養ケアプロセスの 実際 3 （高齢者疾患）	演習：栄養ケアプロセスの手順に沿って栄養 アセスメントを行い、栄養診断に基づいて栄 養計画を立案する。併せて、診療録の記載、 栄養情報提供書の作成につなげる。	事前（1 時間）：配布された事例を検討する。 事後（2 時間）：学習内容を整理し、課題レポートに取り 組む。
15 首藤・ 岡本・ 大日向	看護職と栄養職の連 携・協働のためのア セスメントの共有 （まとめ）	演習：看護職と栄養職の連携・協働のための アセスメントのあり方について授業での学 修を踏まえて話し合い、発表する。	事前（1 時間）：多職種の視点を統合したアセスメントの あり方と実践への活用について、自分の考えをまとめる。 事後（0.5 時間）：学習内容のまとめ、感想の記載。

授業科目	健康教育論 Health Education			担当教員	○百々瀬いづみ 近藤 明代
年次・学期	1 年次・後期			選択・必修	選択
授業形態	演習			単位数	1 単位
研究科ディプロマ・ポリシー	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5
	○	○			
授業目的	本科目では、保健医療分野における看護師・保健師・管理栄養士職の重要な役割である健康教育の基礎となる諸理論を学修し、異なる専門的立場から、対象の特性の分析、目的・目標の設定、有効な教育方法や教材の選択方法を学び、適切な教育指導のあり方、企画書と指導案、評価指標の作成法の理解を深める。また、「看護」や「栄養・食」に関する事例をもとに教育指導案を作成、発表し、それらの対象の分析、目標設定、指導内容と方法の効果、教材の選択等の一連の過程を通して、教育指導の理解を深め、実践能力の向上を図る。				
到達目標	1.ヘルスプロモーションの理念や行動変容の理論を基に、対象が抱える健康課題をアセスメントできる。 2.対象が抱える健康課題を体系的に捉え、健康課題の解決のための目的、目標を設定できる。 3.行動変容の理論を活用し、目標達成のために有効な教育方法や教材の選択ができる。 4. 対象に健康教育を実施する際の企画書、指導案、評価指標を作成できる。 5.対象の分析、目標設定、指導内容・方法、教材の選択が適切かを評価できる。 6 対象に実施した健康教育を評価し、学生の課題を明確にして改善に向けた意見を述べることができる。 7.保健医療分野における専門性が異なる職種の役割と共同する必要性について意見を述べることができる。				
テキスト	特に指定なし。				
参考書	ローレンス W. グリーン他著 神馬征峰「実践 ヘルスプロモーション」(医学書院) 石井敏弘「健康教育大要」(ライフ・サイエンス・センター) 松田正己「みんなの PHC 入門」(垣内出版株式会社) 一般社団法人日本健康教育学会「健康行動理論による研究と実践」(医学書院) C.エイブラハム M.クルーズ編「行動変容を促すヘルス・コミュニケーション」(北大路書房) 金川克子「食生活の基礎と事例から学ぶ「食事支援・指導」(中央法規) 金川克子「エビデンスと実践事例から学ぶ「運動指導」(中央法規) その他は、授業中に紹介する。				
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験		・課題レポート：本科目の授業目的を踏まえ、具体的な学びについて記載されているか、また、健康教育の計画立案、実施、評価の一連の過程を通して捉えた今後の課題について考察されているかについて評価する。 ・提出物：各授業における発表資料の構成、内容の具体性、学生の意見が具体的に記載されているか、またプレゼンテーションの明確さについて評価する。 ・パフォーマンス：各授業の事前学習、課題への取り組み状況とディスカッションへの参加状況等で評価する。 ※評価基準の詳細はガイダンス時に提示する。		
	課題レポート	40			
	小テスト				
	提出物	40			
	パフォーマンス	20			
履修上の留意事項	参考書と配付資料を活用しながら授業に参加する。また指導案の作成においては、自己体験をもとに意見交換をしながら学修を進める。				
回数担当	学習の主題	授業内容		事前・事後学習	
1 近藤	科目ガイダンスとヘルスプロモーションの理解①	1. 本科目の目的、目標、授業内容、評価方法、履修上の留意点を説明 2. ヘルスプロモーションの理念とプリシード・プロシードモデルの紹介		事前：提示された参考書を基にヘルスプロモーションについて調べる（1 時間程度）。 事後：プリシード・プロシードモデルについて復習する（1 時間程度）。	
2 百々瀬	ヘルスプロモーションの理解②	ヘルスプロモーションの理念をもとに、学生自身の実践活動を分析し、課題を明らかにする。		事前：学生自身の活動を説明する資料を作成する（1 時間程度）。 事後：授業内で分析した内容をまとめ、課題を明確にする（1 時間程度）。	
3 近藤	行動変容の理論①	行動変容の理論を紹介 ひとつの行動変容の理論をもとに、学生自身の活動を分析する		事前：行動変容の理論について予習し、分析する活動を紹介する資料を作成する（1 時間程度）。 事後：分析した結果をまとめる（1 時間程度）。	
4 百々瀬	行動変容の理論②	行動変容の理論を紹介 ①とは異なる行動変容の理論をもとに、学生自身の活動を分析する		事前：行動変容の理論について予習し、分析する活動を紹介する資料を作成する（1 時間程度）。 事後：分析した結果をまとめる（1 時間程度）。	

回数 担当	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5 近藤	保健・看護分野における健康教育の対象と目的・目標の設定を評価①	1. 健康教育の対象の理解 2. 健康教育の目的・目標の考え方 3. 健康教育の評価の考え方	事前：参考図書と配付資料をもとに予習する（1 時間程度）。 事後：授業内容をまとめ、ポイントを復習する（1 時間程度）。
6 百々瀬	栄養・食の分野における健康教育の対象と目的・目標の設定を評価②	1. 健康教育の対象の理解 2. 健康教育の目的・目標の考え方 3. 健康教育の評価の考え方	事前：参考図書と配付資料をもとに予習する（1 時間程度）。 事後：授業内容をまとめ、ポイントを復習する（1 時間程度）。
7 近藤	保健・看護分野における健康教育の計画立案①	1. 健康教育の企画書の作成 2. 健康教育の指導案の作成	事前：参考図書と配付資料をもとに予習する（1 時間程度）。 事後：授業内容をまとめ、ポイントを復習する（1 時間程度）。
8 百々瀬	栄養・食の分野における健康教育の計画立案②	1. 健康教育の企画書の作成 2. 健康教育の指導案の作成	事前：参考図書と配付資料をもとに予習する（1 時間程度）。 事後：授業内容をまとめ、ポイントを復習する（1 時間程度）。
9 百々瀬・ 近藤	健康教育の実践に向けた計画①	各自が実施する健康教育の対象の紹介とその対象が抱える健康課題の発表	事前：健康教育を実施する事例とその理由を考え、説明する資料を作成する（1 時間程度）。 事後：事例を検討した結果をまとめ、課題を明確にする（1 時間程度）。
10 百々瀬・ 近藤	健康教育の実践に向けた計画②	各対象が抱える健康課題について看護師、保健師、管理栄養士の立場から体系的に健康課題を捉えるディスカッション	事前：事例の課題を明確にし、健康教育の目標を発表する際の資料を作成する（1 時間程度）。 事後：事例の課題を検討した結果をまとめる（1 時間程度）。
11～12 百々瀬・ 近藤	健康教育の実践に向けた計画③	目標達成に向けた計画書（企画書・指導案）と評価指標の発表 計画書と評価指標の妥当性についてのディスカッション 健康教育に参画する専門性が異なる職種の役割と共同する必要性についてディスカッション	事前：参考図書や授業での検討内容を基に、計画立案の準備をする（1 時間程度）。 事後：意見交換結果を基に修正を行う（1 時間程度）。
13～14 百々瀬・ 近藤	健康教育の実施	立案した計画をもとに場面を設定し、実際に健康教育を展開	事前：対象を選定し、健康教育の実施に向けた準備を行う（1 時間程度）。 事後：実施後の評価を行う（1 時間程度）。
15 百々瀬・ 近藤	健康教育の評価	健康教育の計画立案から評価までの一連の過程を通しての学びを振り返り、専門性を活かした健康教育を実施する際に求められる実践能力と自己の今後の課題についてのディスカッション	事前：健康教育の実施の評価を報告する準備を行う（1 時間程度）。 事後：分析した事後：本科目の学びを課題レポートにまとめる（1 時間以上）。

授業科目	健康行動科学特論 Advanced Health Behavioral Science			担当教員	北田 雅子
年次・学期	1 年次・後期			選択・必修	選択
授業形態	講義			単位数	2 単位
研究科ディプロマ・ポリシー	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5
	○	○			
授業目的	非感染疾患を中心とする疾病は、その発症と予防において社会環境要因と並び、ライフスタイルが大きな影響を与える。この授業では、人生 100 年時代を念頭にライフサイクルおよびライフコースの視点から健康課題を取り上げ、その課題解決に向けたアプローチについて解説する。さらに、健康教育は行動科学の応用分野であることを踏まえ、行動変容に関わる諸理論を概観し理論背景と実践例を具体的に提示する。そして、最終的には個人レベルから地域社会、国家レベルという視点から、ヘルスプロモーションを概観し解説する。				
到達目標	1) ライフスタイルおよびライフコースにおける諸々の健康課題を説明できる 2) 健康課題の解決に向けた介入プログラムについて健康行動理論を用いて検討できる。 3) 健康行動理論に基づき、これまでの健康政策やヘルスプロモーション活動を評価できる。 4) 健康行動理論を参考に、現実に即した健康教育を企画・立案できる。				
テキスト	・事前に資料や授業で取り扱うテーマに関連した課題を提示します。				
参考書	木原雅子「健康行動学」メディカル・サイエンス・インターナショナル 川上憲人「社会と健康」東京大学出版会 松本千明「健康行動理論の基礎」医歯薬出版				
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準		
	レポート	40	レポート：提出状況及び内容の具体性と論理性 プレゼンテーション：提示内容及び質疑応答の論理性 ディスカッション：積極的な発言及び発言内容の論理性		
	プレゼンテーション	30			
	ディスカッション	30			
履修上の留意事項	・健康行動理論、行動科学や社会心理学など健康行動科学関連の書籍を事前に 1 通り読んでおくことが望ましい。 ・各回の授業内容で分からない専門用語があれば、次回までにその意味等を復習して理解しておくこと。 ・当該期間に 30 時間以上の予復習が必要				
回数担当	学習の主題	授業内容		事前・事後学習	
1	健康行動科学について	健康の概念、行動科学の歴史、健康行動と疾病の予防 健康政策、ヘルスプロモーション		事前：国内外で実施されている健康政策およびヘルスプロモーションについて事前にレポートを作成してから授業に臨む。 事後：授業で配布された資料や動画コンテンツを参考に事後課題に取り組む。	
2	ライフサイクルと健康問題（1）	乳幼児期から青年期にかけての健康問題 子どもをめぐる環境変化と子育て育児に関連した課題		事前：授業テーマに関連した課題に取り組み、レポートを作成してから授業に臨む。 事後：授業で配布された資料や動画コンテンツを参考に事後課題に取り組む。	
3	ライフサイクルと健康問題（2）	成人期から高齢期にかけての健康問題 フレイル、ロコモティブシンドローム、オレンジプラン等		事前：授業テーマに関連した課題に取り組み、レポートを作成してから授業に臨む。 事後：授業で配布された資料や動画コンテンツを参考に事後課題に取り組む。	
4	社会と健康	社会階層・SES、健康格差		事前：授業テーマに関連した課題に取り組み、レポートを作成してから授業に臨む。 事後：授業で配布された資料や動画コンテンツを参考に事後課題に取り組む。	
5	社会的つながりと健康	ソーシャルキャピタル		事前：授業テーマに関連した課題に取り組み、レポートを作成してから授業に臨む。 事後：授業で配布された資料や動画コンテンツを参考に事後課題に取り組む。	
6	ライフサイクルまたは社会と健康に関連する国内外の取り組みについて	グループワーク・プレゼンテーション①		事前：プレゼンテーションを作成する。 事後：授業におけるディスカッションを基に事後課題に取り組む。	

回数 担当	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7	健康教育とヘルスリテラシー	ヘルスリテラシーを構成する要素	事前：授業テーマに関連した課題に取り組み、レポートを作成してから授業に臨む。 事後：授業で配布された資料や動画コンテンツを参考に事後課題に取り組む。
8	行動の学習理論	学習理論、条件付け、社会的学習、内的動機づけと外的動機づけ	事前：授業テーマに関連した課題に取り組み、レポートを作成してから授業に臨む。 事後：授業で配布された資料や動画コンテンツを参考に事後課題に取り組む。
9	個人の行動変容と動機づけ面接	両価性，抵抗，認知的不協和，自己知覚理論	事前：授業テーマに関連した課題に取り組み、レポートを作成してから授業に臨む。 事後：授業で配布された資料や動画コンテンツを参考に事後課題に取り組む。
10	健康行動と健康教育	健康・病気行動、健康信念モデル、計画的行動理論、変化のステージモデル	事前：授業テーマに関連した課題に取り組み、レポートを作成してから授業に臨む。 事後：授業で配布された資料や動画コンテンツを参考に事後課題に取り組む。
11	個人の行動変容を促すためのアプローチについて	グループワーク・プレゼンテーション②	事前：プレゼンテーションを作成する。 事後：授業におけるディスカッションを基に事後課題に取り組む。
12	ソーシャル・マーケティング	行動変容を促すためのマーケティング	事前：授業テーマに関連した課題に取り組み、レポートを作成してから授業に臨む。 事後：授業で配布された資料や動画コンテンツを参考に事後課題に取り組む。
13	ヘルスプロモーションと行動変容	協働意思決定，行動経済学，ナッジ	事前：授業テーマに関連した課題に取り組み、レポートを作成してから授業に臨む。 事後：授業で配布された資料や動画コンテンツを参考に事後課題に取り組む。
14	ヘルス・コミュニケーション	健康医療情報のコミュニケーション、情報収集行動、ヘルスリテラシー	事前：授業テーマに関連した課題に取り組み、レポートを作成してから授業に臨む。 事後：授業で配布された資料や動画コンテンツを参考に事後課題に取り組む。
15	組織・チームによる健康教育	医療・公衆衛生におけるチームづくり，チームワーク，心理的安全性、リーダーシップ、多職種連携	事前：授業テーマに関連した課題に取り組み、レポートを作成してから授業に臨む。 事後：授業で配布された資料や動画コンテンツを参考に事後課題に取り組む。

授業科目	保健医療教育学特論 Seminar in Health Care Education			担当教員	大日向 輝美
年次・学期	1 年次・前期			選択・必修	選択
授業形態	講義			単位数	2 単位
研究科ディプロマ・ポリシー	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5
	○	○			
授業目的	保健医療機能の充実・発展には、保健医療にかかわる専門職養成と専門職教育のありようが大きく関与する。地域社会に暮らす人々の生活支援を担う専門職としての能力は教育実践によって培われることを踏まえ、保健医療を支える専門職の人材育成を追求するための基盤となる知識を修得する。 具体的には、教育そのものの理解に基づき、保健医療専門職の養成教育について、看護職・管理栄養士の職業的発展、保健医療に関わる歴史的・社会的規定との関連から教育制度・教育課程の課題を明確化し、改善・改革方を具体化する。加えて、看護職・管理栄養士としてのキャリアマネジメント、コンピテンシーとプロフェッショナリズム、これらにかかわる諸理論を学修し、今後の看護職・管理栄養士の養成教育、専門職教育のあり方について考察する。				
到達目標	1. 教育の概念と制度について、保健医療専門職の養成教育と関連させて説明できる。 2. 保健医療専門職の養成教育制度の概要、自職種の養成教育（教育制度・教育課程）の特徴と課題、改善・改革方を考察できる。 3. 専門職の概念について理解し、看護師・管理栄養士の専門職性と専門職化の課題を考察できる。 4. 保健医療専門職に求められるコンピテンシーの概要を理解し、自職種の現状と課題を考察できる。 5. キャリアマネジメントの概念、保健医療専門職のキャリア発達、継続教育・現任教育の現状・課題を踏まえ、自己のキャリアビジョンを明確化できる。 6. 授業で学んだ教育学習理論の概要と、保健医療専門職の養成教育への理論の適用について説明できる。				
テキスト	指定なし				
参考書	杉森みどり、舟島なをみ「看護教育学」第5版（医学書院） グレッグ美鈴、池西悦子編「看護教育学」（南江堂） 佐伯胖他「学びへの誘い」（東京大学出版会） 佐伯胖『『学ぶ』ということの意味』（岩波書店） 佐伯胖『『学び』の構造』（東洋館出版社） J・レイブ、E・ウェンガー（佐伯胖訳）「状況に埋め込まれた学習、正統的周辺参加」（産業図書） S・ドナルド（佐藤学他訳）「専門家の知恵、反省的实践家は行為しながら考える」（ゆみる出版） 山田恵吾、貝塚茂樹編著「教育学の教科書、教育を考えるための12章」（文化書房博文社） M・ノールズ（堀薫夫他監訳）「成人教育の現代的実践、ペダゴジーからアンドラゴジーへ」（鳳書房） P・クラントン（入江直子他訳）「おとなの学びを拓く、自己決定と意識変容をめざして」（鳳書房） R・E・クルーズ他(日本医学教育学会倫理・プロフェッショナリズム委員会監訳)「医療プロフェッショナリズム教育」（日本評論社） P・F・ドラッガー（上田惇生訳）「プロフェッショナルの条件」（ダイヤモンド社） 金井嘉宏「働く人のためのキャリアデザイン」（PHP 研究所） Billings DM & Halstead JA「Teaching in Nursing : A Guide for Faculty, 3 rd 」（SAUNDERS） その他、授業中に紹介する。				
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準		
	ワークシート	40	ワークシート：事前・事後学習の取組みに関し、提出状況と記述内容をルーブリックで評価する。		
	プレゼンテーション	20	プレゼンテーション：テーマについて複数文献から情報を収集し、自らの意見を含めて発表する。プレゼンテーションの準備と内容、質疑応答等から評価する。		
	ディスカッション	20	ディスカッション：発言内容・姿勢等を評価する。		
	課題レポート	20	課題レポート：保健医療に関わる教育現象をテーマに論述する。詳細は授業最終日に提示する。問題設定・論理構成・体裁・表現等から評価する。		
履修上の留意事項	・下記のスケジュールは学習の進捗状況によって調整・変更する場合がある。 ・授業では必ずディスカッションを行うため、積極的に参画すること。また、事前学習への取組みは当然であるが、事後学習で授業での学びを振り返り、理解を深めていく姿勢が望まれる。 ・教員からのフィードバックとルーブリックを用いた自己評価等により、自己課題を明確にしながら学修する姿勢が求められる。				
回数担当	学習の主題	授業内容		事前・事後学習	
1	ガイダンス	① 科目概要と進め方の説明 ② 学修目標の発表		事前（1 時間）： ① シラバスを熟読し、確認事項を明確化する。 ② 自己学修目標を設定し、ワークシートに記載する。	

回数 担当	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
2	教育の概念と制度	① 自己の経験を踏まえ「教育とは何か」をディスカッション。 ② 教育の概念と制度に関する講義。	事後（1 時間）：授業での学びを踏まえ、「教育とは何か」についてワークシートに記載。
3	保健医療専門職の養成教育制度 1_ 看護職（保健師・助産師・看護師・准看護師）	① 看護職養成の現状・変遷に関するプレゼンテーションと講義。 ② 看護職養成制度の課題に関わるディスカッション。	事前（2 時間）： ① 看護職養成の現状・変遷を調べ、プレゼンテーション用資料を作成。 ② 看護職・管理栄養士の養成教育に関わる事前配付資料を熟読する。
4	保健医療専門職の養成教育制度 2_ 管理栄養士（栄養士含む）	① 管理栄養士養成の現状・変遷に関するプレゼンテーションと講義。 ② 看護職と管理栄養士の養成制度の共通性・相違性に関わるディスカッション。 ③ 医師・歯科医師・薬剤師の養成教育の特徴と、看護職・管理栄養士養成制度との相違に関する講義。	事前（2 時間）：管理栄養士養成の現状・変遷を調べ、プレゼンテーション用資料を作成。 事後（1 時間）：看護職・管理栄養士の養成教育の特徴、現行制度の課題と改善・改革方をワークシートに記載。
5	専門職の概念と教育 1	専門職、自職種の専門職性に関するディスカッション。	事後（1 時間）：グループ討議の内容と専門職に関する私見をワークシートに記載。
6	専門職の概念と教育 2	① 専門職の概念（定義・基準・変遷等）に関する講義。 ② 専門職養成、専門職化の推進に係る教育上の課題に関するディスカッション。	事後（1 時間）：学習主題に関する学びの要約、自職種の専門職化への課題、改善・改革方をワークシートに記載。
7	保健医療専門職養成の教育課程 1_ 教育課程の概念と指定規則	① カリキュラムの概念、指定規則と大学教育に関する講義。 ② 提示された問いに関するディスカッション。	事後（0.5 時間）：学習主題に関する学びの要約等をワークシートに記載。
8	保健医療専門職養成の教育課程 2_ 看護職・管理栄養士養成に係る教育課程の現状と課題	① 看護職・管理栄養士の指定規則の特徴、共通性と相違性、指定規則の変遷と背景に関わるディスカッション。 ② 指定規則の変遷と背景、看護学教育モデル・コア・カリキュラム、栄養学教育モデル・コア・カリキュラムと各指定規則の関係、教育課程編成上の課題に関する講義。	事前（1 時間）：指定規則の変遷とその背景を考察し、ワークシートに記載。看護学教育モデル・コア・カリキュラム、栄養学教育モデル・コア・カリキュラムの内容確認。 事後（1 時間）：学習主題に関する学びの要約、看護職・管理栄養士の養成教育におけるカリキュラムの特徴と課題、改善方略についてワークシートに記載。
9	保健医療専門職に求められるコンピテンシーとプロフェッショナリズム	① 事前学習内容の発表。 ② 保健医療専門職のコンピテンシー、プロフェッショナリズムの概念、プロフェッショナリズム教育に関する講義。 ③ 提示された問いに対するディスカッション。	事前（1 時間）：自職種に求められるコンピテンシーを調べ、プレゼンテーション用資料を作成。 事後（1 時間）：コンピテンシーとプロフェッショナリズムの観点から、自職種及び自己の課題を考察し、ワークシートに記載。
10	保健医療専門職に対する継続教育・現任教育の現状と課題	① 事前学習内容のプレゼンテーション。 ② 医師の臨床研修、看護職・管理栄養士の継続教育・現任教育の現状と課題に関する講義。 ③ 提示された問いに対するディスカッション。	事前（1 時間）：自職種の継続教育・現任教育の制度・内容について調べ、プレゼンテーション用資料を作成。 事後（1 時間）：学習主題に関する学びの要約、自職種の継続教育・現任教育のありようを他職種と比較し、その特徴と課題についてワークシートに記載。
11	保健医療専門職のキャリアマネジメント	① 事前学習内容のプレゼンテーション。 ② キャリア発達の概要等に関する講義。 ③ 提示された問いに対するディスカッション。	事前（1 時間）：キャリア、キャリア発達、キャリアデザイン、キャリアマネジメント等について調べ、プレゼンテーション用資料を作成。 事後（1 時間）：自己のキャリアビジョン、目標を明確化し、ワークシートに記載。
12	保健医療専門職の養成と教育学習理論 1_ 成人学習理論、動機付原理	① ノールズの成人学習理論の概要と適用、動機付原理の概要と意欲への影響要因等に関する講義。 ② 提示された問いに対するディスカッション。	事後（0.5 時間）：ワークシートに示された課題への取り組み。
13	保健医療専門職の養成と教育学習理論 2_ 経験学習とリフレクション	① コルブの経験学習モデルとリフレクションの概要、経験学習への支援等に関する講義。 ② 提示された問いに対するディスカッション。	事後（0.5 時間分）：ワークシートに示された課題への取り組み。

回数 担当	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
14	保健医療専門職の養成と教育学習理論 3_正統的周辺参加論と認知的徒弟制	① 正統的周辺参加論と認知的徒弟制の概要、専門職養成教育・専門職教育への適用に関する講義。 ② 提示された問いに対するディスカッション。	事後（0.5 時間）：ワークシートに示された課題への取り組み。
15	まとめ、課題レポート説明	これまでの学修に関連する受講者の疑問や提案をもとにテーマを設定し、討議する。	事前：テーマに基づき提示された課題に取り組む。 事後（1 時間）：討議内容の要約と学びの内容、学修目標の到達状況をワークシートに記載。

授業科目	フィールドワーク Fieldwork			担当教員	○服部 ユカリ 川口 美喜子 近藤 明代 山部 秀子
年次・学期	1 年次・後期			選択・必修	必修
授業形態	実習			単位数	1 単位
研究科ディプロマ・ポリシー	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5
	○		○	○	○
授業目的	看護職と栄養職（管理栄養士）は、健康・生活・栄養を共有概念とする専門職としての特性を有している。そのため、両者の連携・協働による専門的視点の相補的活用が、対象者中心の健康増進・健康再生支援の質的向上に寄与する可能性を有することは既修のとおりである。しかしながら、看護職と栄養職の関係構築に影響を及ぼす様々な要因により連携・協働体制が進展しているとは言いがたいのが実情である。こうしたことを前提に、健康・生活・栄養にかかわる質の高い保健医療の実現をめざし、多職種連携やチームマネジメント等、看護職と栄養職が連携・協働する健康生活支援の基盤となる知識・技術の学修を深め、基盤的能力の向上に取り組んできたところである。本科目では、これまでの学修を踏まえて、看護職・栄養職が活動する場（フィールド）において、対象者に提供されるケア等の活動実態と連携・協働のありよう、ケアマネジメントやチームマネジメント等の実際について、シャドーイングを中心とする学修活動によって把握・理解するとともに課題を洗い出し、自分なりの改善・改革方略を提案する。具体的には、看護職・栄養職が看護ケア・栄養ケアを実践する保健医療施設・事業所（フィールド）において、自ら立案した学修課題と学修目標・計画をもとに学修活動を展開し、その成果を学生間で共有・発展させることにより、看護職・栄養職の連携・協働、保健医療のあり方について洞察を深める。				
到達目標	1. 自ら設定した学修課題をもとに選択したフィールドで活動することを視野に入れ、利用者と看護職・栄養職等との連携・協働、ケアマネジメント、チームマネジメントの実際と特徴を学ぶための学修目標・計画を具体的に立案できる。 2. フィールドとした施設の特徴と事業内容を把握し、地域の保健医療における位置と役割について説明できる。 3. 当該施設における看護職・栄養職の役割と活動内容、多職種連携・協働のありようを把握し、説明できる。 4. 当該施設における看護職・栄養職の関わるケアマネジメント、チームマネジメントの実態を把握し、説明できる。 5. 当該施設の事業内容と看護職・栄養職が行う看護ケア・栄養ケアの現状を踏まえ、対象者中心のケアを実現するための目標と課題について考察できる。 6. フィールドワークの成果を他者と共有することで、看護・栄養の連携・協働を推進するうえでの目標と課題、について改善・改革方策に関する洞察を深め、私見を述べることができる。				
テキスト	なし				
参考書	なし				
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準		
	学修課題・目標・計画	20	1) 学修目標・計画：授業目的との関連性と具体性等		
	フィールド記録	20	2) フィールド記録：所定の項目に対する記述内容の具体性等		
	成果発表とディスカッション	20	3) 成果発表とディスカッション：発表用資料の構成・内容の具体性、発表内容・発表姿勢、ディスカッションへの参加状況等		
	課題レポート	20	4) 課題レポート：テーマと記述内容の一貫性、全体の論理性、文章表現、私見の具体性等		
	フィールドでのパフォーマンス	20	5) フィールドでのパフォーマンス：ワークへの取り組み姿勢等		
			＊ 評価基準の詳細はガイダンス時に提示する		
履修上の留意事項	1. フィールドの選択、学修目標・計画の立案に関しては、事前に担当教員の指導を受ける。 2. ガイダンス時に配付する実施要項を熟読してフィールドワークの準備を整え、主体的にワークに臨む。				
学修方法	1. ガイダンスと事前学修（1 日間） 1) ガイダンス：フィールドワーク実施要項を用い、本科目の目的・内容・方法等を説明 2) 事前学修：学修課題の明確化とフィールドの選択、学修目標・計画の立案 3) 担当教員との面談：学修課題を踏まえたフィールドの選択と学修目標・計画に関する指導を受ける 2. フィールドでの学修（3 日間） 実施日時：2 月第 2～4 週の 3 日間、原則 9:00～15:30 とする 実施日程は担当教員と調整し決定する 内容・方法等： 1) フィールドの担当者に同行し、シャドーイングによる学修を行う 2) 利用者 1 例以上のケア、当該施設の事業内容と看護職・栄養職、その他の関係職種との連携・協働のありよう、チームマネジメントの実際について説明を受ける 3) 適宜カンファレンス等に参加する 4) 利用者のケア等に同行し見学する（当該施設の許可と利用者の同意に基づく） 5) 学修計画は事前に当該施設の担当者で調整する 6) 日々の学修内容は所定のフィールド記録に記載し、必要に応じて担当者に提示する				

学修方法	3. 学内学修（1日間：2月第4土曜日） 1) 学修記録等の整理 2) 学修成果の発表とディスカッション 4. 学修のまとめ フィールドでの体験と学内学修をもとに、本科目での学修成果にかかわるレポートをまとめる
フィールド	看護職・栄養職が看護ケア・栄養ケアを実践している下記3ヵ所とし、看護職・栄養職の別にかかわらず自己の学修課題に基づき、教員の指導を受けて選択する。 1. 道立帯広保健所 2. 札幌医科大学附属病院（病棟・栄養管理センター等） 3. 東苗穂訪問看護ステーション

授業科目	健康食生活学特論 Seminar in Health and Diet			担当教員	○板垣 康治 金高 有里
年次・学期	1 年次・前期			選択・必修	選択
授業形態	講義			単位数	2 単位
研究科ディプロマ・ポリシー	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5
	○	○			
授業目的	本科目は、健康の維持増進、保健活動としての疾病予防の観点から、個人のライフステージや心身の健康状態に対応した支援の重要課題の一つである健全な食習慣構築に向けた食生活のあり方を学び、修得することを目的とする。すなわち、食品が持つ一次（栄養）・二次（感覚）・三次（生体調節）の 3 つの機能の中で、とくに三次機能として食品に由来する免疫機能発現を中心に解説する。次に、健康増進に寄与する日常の食生活の実践的支援に向けて、現代食生活の課題とその解決に寄与する健全な食生活のあり方を解説する。				
到達目標	1. 各ライフステージにおける現代食の課題、個人の健康と食生活の関係を説明できる。 2. 健全な食習慣構築のためのエビデンスに基づく食生活のあり方を説明できる。 3. 修得した知識・技術を自己の専門分野で実践する方策を検討できる。 4. 食品の一次（栄養）・二次（感覚）・三次（生体調節）の 3 つの機能と活用法を説明できる。 5. 健康と食性活の関係で注目される食品由来の免疫調節機能、アレルギー発現について説明できる。				
テキスト	京都健康フォーラム監修「食と健康のための免疫学入門」（建帛社）				
参考書	今井伸二郎「機能性食品学」（コロナ社） 戸塚 護「食品免疫学のプロが書いたウイルスに負けない最高の食事術」（扶桑社） 日本食品免疫学会編集「食品免疫学事典」（朝倉書店） 伊藤浩明「食物アレルギーのすべて」（診断と治療社）				
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準		
	提出物	40	提出物：提出状況および内容の具体性、論理性		
	授業への参加状況	30	授業への参加状況：積極的な発言、発言内容の論理性、適確性		
	発表	30	発表：提示内容の倫理性、質疑応答の具体性、適確性、討議姿勢など		
履修上の留意事項	常に問題意識を持って授業に積極的に参加し、予習、復習に努めること。				
回数担当	学習の主題	授業内容		事前・事後学習	
1 板垣	授業オリエンテーション	本科目の目的、目標、授業の進め方、評価方法・基準などについて説明する。食の機能性（一次機能、二次機能、三次機能）について解説する。		事前；教科書第 1 章「食と免疫」を読んでおくこと。食の一次機能、二次機能、三次機能について調べておくこと（2 時間）。 事後；授業内容を整理し、ノートにまとめる（2 時間）。	
2 板垣	食品の一次機能	食品の一次機能である栄養について、各成分の人体における役割について解説する。		事前；事前に配布した資料を読んでおくこと（2 時間）。 事後；授業内容を整理し、ノートにまとめる（2 時間）。	
3 板垣	食品の二次機能	食品の二次機能、すなわち食を摂取する際の感覚に及ぼす要因について解説する。		事前；事前に配布した資料を読んでおくこと（2 時間）。 事後；授業内容を整理し、ノートにまとめる（2 時間）。	
4 板垣	食品の三次機能	食品の三次機能、すなわち食品が持つ生体調節作用について解説する。		事前；事前に配布した資料を読んでおくこと（2 時間）。 事後；授業内容を整理し、ノートにまとめる（2 時間）。	
5 板垣	腸管免疫と腸内細菌	免疫において重要な役割を担っている腸管について、腸内細菌との関係を中心に解説する。		事前；教科書第 2 章「腸管免疫と腸内細菌」を読んでおくこと（2 時間）。 事後；授業内容を整理し、ノートにまとめる（2 時間）。	
6 板垣	プロバイオティクス	プロバイオティクスと感染症、炎症性腸疾患について解説する。		事前；教科書第 3 章「プロバイオティクスと感染症」、第 4 章「プロバイオティクスと炎症性腸疾患」、第 5 章「プロバイオティクスとアレルギー」を読んでおくこと（2 時間）。 事後；授業内容を整理し、ノートにまとめる（2 時間）。	
7 板垣	ワクチン	アレルギーワクチン、植物を利用したワクチン、がんペプチドワクチン、アルツハイマー型認知症とワクチンなどについて解説する。		事前；教科書第 8 章「アレルギーワクチン米によるスギ花粉症の閑話戦略」、第 9 章「植物を利用したワクチンの開発と生産」、第 10 章「がんペプチドワクチン」、第 11 章「アルツハイマー型認知症とワクチン」を読んでおくこと（2 時間）。 事後；授業内容を整理し、ノートにまとめる（2 時間）。	

回数 担当	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
8 板垣	食品に由来する免疫機能とアレルギー（1）	事前に指定した資料に基づく講義を聞き、教材をよく読んで、レポートにまとめさせる。	事前；事前に配布した資料、および指定した教材を読んでおくこと（2 時間）。 事後；授業内容を整理し、ノートにまとめる（2 時間）。
9 板垣	食品に由来する免疫機能とアレルギー（2）	食物アレルギーの基礎知識、および実態について、食育の視点、現代社会とも紐づけて解説する。	事前；あらかじめ配布した資料を読んでおくこと（2 時間）。 事後；授業内容を整理し、ノートにまとめ、発表の準備を行う（2 時間）。
10 板垣	食品に由来する免疫機能とアレルギー（3）	経口免疫寛容を利用した食物アレルギーの治療について解説する。「食物アレルギーについて」発表させる。	事前；教科書第 6 章「経口免疫寛容を利用した食物アレルギーの治療」を読んでおくこと（2 時間）。 事後；授業内容を整理し、ノートにまとめる（2 時間）。
11 金高	現代食生活の課題点と保健活動の現状	現代食生活の課題として、ライフステージ別に生じている問題を検討する。また、健康の維持増進、疾患予防の保健活動の現状とあり方を考察する。	事前；参考資料、関連論文・記事を読んでおく（2 時間）。 事後；授業内容を整理し、ノートにまとめる（2 時間）。
12 金高	周産期・妊娠期における健康と食生活	健康増進に寄与する日常の食生活の実践について、女性の妊娠期・周産期のライフステージにおける課題と問題解決について考察し、検討する。	事前；参考資料、関連論文・記事を読んでおく（2 時間）。 事後；授業内容を整理し、ノートにまとめる（2 時間）。
13 金高	授乳期・乳児期における健康と食生活	健康増進に寄与する日常の食生活の実践について、女性の授乳期と乳児のライフステージにおける栄養と離乳食における課題と問題解決について考察し、検討する。	事前；参考資料、関連論文・記事を読んでおく（2 時間）。 事後；授業内容を整理し、ノートにまとめる（2 時間）。
14 金高	幼児期・学童期・思春期における健康と食生活	健康増進に寄与する日常の食生活の実践について、幼児期・学童期・思春期のライフステージにおける栄養と生活における課題と問題解決について考察し、検討する。	事前；参考資料、関連論文・記事を読んでおく（2 時間）。 事後；授業内容を整理し、ノートにまとめる（2 時間）。
15 金高	成人期・高齢期における健康と食生活	健康増進に寄与する日常の食生活の実践について、成人期・高齢期のライフステージにおける栄養と生活における課題と問題解決について考察し、検討する。	事前；参考資料、関連論文・記事を読んでおく（2 時間）。 事後；授業内容を整理し、ノートにまとめる（2 時間）。

授業科目	健康増進支援学特論Ⅰ Seminar in Support Science of Health PromotionⅠ			担当教員	○近藤 明代 山部 秀子
年次・学期	1 年次・前期			選択・必修	選択
授業形態	講義			単位数	2 単位
研究科ディプロマ・ポリシー	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5
	○	○			
授業目的	超高齢社会、少子化の加速による健康課題に対応するため、国は 21 世紀における第 2 次国民健康づくり運動（健康日本 21（第 2 次））を掲げ、将来に向けて健康寿命の延伸と健康格差の縮小、生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底等、人々の生活のあり方を見直し、社会環境の改善・向上をめざしている。 本科目では、人々が人生の最期までその人らしく生き続けることができることを目指して、地域の住民（個人・家族）や集団・組織、さらに地域を支援の単位として展開される地域保健活動について取り上げる。歴史的視点・社会的視点から、地域保健医療体制も含めた地域保健活動の現状と課題を考察する。さらに将来を見通し、保健医療職である看護職（看護師・保健師）栄養士職のそれぞれの専門性を踏まえた役割・機能と専門的実践について教授し、地域保健活動における看護職と栄養士職の協働のあり方について検討する。				
到達目標	1. わが国の地域保健に関する課題と地域保健医療体制の変遷について説明できる。 2. 地域包括ケアが目指すこととその課題について説明できる。 3. 地域共生社会が提案される背景と推進における課題について説明できる。 4. 健康に影響する社会的決定要因を理解した上で、健康な地域づくりに向けた対策を説明できる。 5. 地域の食生活・食習慣と健康課題の関係について説明できる。 6. 地域の食に関する健康課題の解決のためのヘルスプロモーション活動の実践について説明できる。 7. ヘルスプロモーションを基盤とした地域づくりにおける看護職・管理栄養士の専門的役割について他職種の比較検討から私見を述べるができる。 8. ヘルスプロモーションを基盤とした地域づくりにおける関係職種の連携・協働のあり方について考察できる。 9. 地域の食に関する健康課題の解決プロセスにおける看護職・管理栄養士としての役割について説明できる。				
テキスト	毎回の授業で配布するレジュメ				
参考書	高山 義浩：地域医療と暮らしのゆくえ：超高齢社会をともに生きる（医学書院） 宇沢弘文：宇沢弘文の経済学・社会的共通資本の論理・（日本経済新聞出版社） CBPR 研究会：地域保健に活かす CBPR コミュニティ参加型の活動・実践・パートナーシップ（医歯薬出版株式会社） 日野秀逸：保健活動の歩み（医学書院） 辻一郎：健康寿命社会を実現するー「2025 年問題」と新しい公衆衛生戦略の展望ー（大修館書店） 秋山美紀：コミュニティヘルスのある社会へー「つながり」が生み出す「いのち」の輪（岩波書店） 今村晴彦：コミュニティのちから “遠慮がちな” ソーシャル・キャピタルの発見（慶應義塾大学出版会） 多田羅浩三：公衆衛生の思想 歴史からの教訓（医学書院） 田中きよむ：小さな拠点を軸とする共生型社会地域づくり 地方消滅論を超えて（晃洋書房） 辻浩：住民参加型福祉と生涯学習（ミネルヴァ書房） 杉本敏夫：保健医療と福祉（ミネルヴァ書房） 河合美香：健康づくり政策への多角的アプローチ（ミネルヴァ書房） イチロー・カワチ：ソーシャル・キャピタルと地域の力（日本評論社） イチロー・カワチ：ソーシャル・キャピタルと健康（日本評論社） 川上憲人：社会格差と健康（東京大学出版会） 府川哲夫：保健医療福祉行政論（ミネルヴァ書房）				
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準		
	レポート	70	教員配分（近藤 60％、山部 40％）		
	ディスカッション	30	1) 各教員の評価方法 近藤（60％）：課題レポート、ディスカッション 山部（40％）：課題レポート、ディスカッション		
			2) 評価項目の基準 課題レポート：テーマと記述内容の一貫性、全体の論理性、文章表現、私見の具体性等 ディスカッション：事前学習・授業内容を踏まえた内容、参加状況等 ＊評価基準の詳細はガイダンス時に提示する。		
履修上の留意事項	地域包括ケアの推進と地域医療体制との関係に関する動向や法制度の成立など関する情報を、新聞などのツールを活用して常時把握する。				
回数担当	学習の主題	授業内容			事前・事後学習
1 近藤	わが国における地域保健医療体制の変遷	1. ガイダンス 2. わが国の社会情勢と健康課題の変遷 3. わが国の健康政策の変遷			事前学習：参考書、多様な情報源を活用し予習を行う。（1 時間） 事後学習：授業内容を復習し、文献を活用して己の考えを整理し、課題を明確にする。（1 時間）

回数 担当	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
2 近藤	わが国が抱える健康課題と地域保健医療体制の特徴	1. 少子高齢社会のわが国が抱える課題（2025年問題、2040年問題等） 2. 少子高齢社会のわが国が抱える健康課題と地域保健医療体制の特徴	事前学習：参考書、多様な情報源を活用し予習を行う。（1時間） 事後学習：授業内容を復習し、文献を活用して自己の考えを整理し、課題を明確にする。（1時間）
3 近藤	健康格差の縮小への取り組み	1. 健康の社会的決定要因 2. 健康格差の現状 3. 健康各社の縮小の取り組み	事前学習：参考書、多様な情報源を活用し予習を行う。（1時間） 事後学習：授業内容を復習し、文献を活用して自己の考えを整理し、課題を明確にする。（1時間）
4 近藤	ソーシャル・キャピタルと健康	1. ソーシャル・キャピタルの醸成が求められる理由 2. ソーシャル・キャピタルと健康の関係	事前学習：参考書、多様な情報源を活用し予習を行う。（1時間） 事後学習：授業内容を復習し、文献を活用して自己の考えを整理し課題を明確にする。（1時間）
5 近藤	地域包括ケアシステムと地域共生社会の推進	1. 地域包括ケアシステムの推進とその課題 2. 地域共生社会の推進とその課題	事前学習：参考書、多様な情報源を活用し予習を行う。（1時間） 事後学習：授業内容を復習し、文献を活用して自己の考えを整理し課題を明確にする。（1時間）
6 近藤	健康長寿社会の実現に向けた取り組み	1. 健康日本21（第二次）の取り組みと評価 2. 健康寿命延伸の取り組み 3. 地域における健康づくりの取り組みにおける課題	事前学習：参考書、多様な情報源を活用し予習を行う。（1時間） 事後学習：授業内容を復習し、文献を活用して自己の考えを整理し課題を明確にする。（1時間）
7 山部	北海道の保健に係る歴史的・社会的背景：生活文化（衣食住）の特徴と変容	1. 北海道における生活文化とその背景 2. 北海道と東北以南の生活文化の関係性	事前学習：参考書、多様な情報源を活用し予習を行う。（1時間） 事後学習：授業内容を復習し、文献を活用して自己の考えを整理し課題を明確にする。（1時間）
8 山部	北海道の保健に係る歴史的・社会的背景：北海道の地域生活と食生活の関わり	1. 北海道の食事や食環境の特徴 2. 北海道の食生活の変容 3. 北海道の地域特性と食生活・食習慣との関係	事前学習：参考書、多様な情報源を活用し予習を行う。（1時間） 事後学習：授業内容を復習し、文献を活用して自己の考えを整理し課題を明確にする。（1時間）
9 山部	北海道の各地域の特性と食生活・食習慣とそれに関連した健康課題	1. 北海道各地の地域特性と食生活・食習慣の実際と課題	事前学習：参考書、多様な情報源を活用し予習を行う。（1時間） 事後学習：授業内容を復習し、文献を活用して自己の考えを整理し課題を明確にする。（1時間）
10 山部	産業に影響を受ける食生活・食習慣とそれに関連した健康課題	1. 農業・酪農を主産業とする地域の食習慣と健康課題 2. 水産業・漁業を主産業とする地域の食習慣と健康課題 3. サービス業を中心とする地域の食習慣と健康課題	事前学習：参考書、多様な情報源を活用し予習を行う。（1時間） 事後学習：授業内容を復習し、文献を活用して自己の考えを整理し課題を明確にする。（1時間）
11 近藤・山部	地域のアセスメントと食生活とそれに関連した健康課題のアセスメントの実際	1. 地域の食生活・食習慣と健康課題のアセスメント	事前学習：参考書、多様な情報源を活用し予習を行う。（1時間） 事後学習：授業内容を復習し、文献を活用して自己の考えを整理し、課題を明確にする。（1時間）
12 近藤・山部	住民の主体性やソーシャル・キャピタルを取り入れたヘルスプロモーションの推進への支援の考え方	1. 住民の主体的な健康課題解決に向け、地域のソーシャル・キャピタルを活かした環境づくりも目指したヘルスプロモーションを推進する支援の考え方	事前学習：参考書、多様な情報源を活用し予習を行う。（1時間） 事後学習：授業内容を復習し、文献を活用して自己の考えを整理し、課題を明確にする。（1時間）
13 近藤・山部	地域のヘルスプロモーションの推進から地域包括ケアシステムの基盤づくり	1. 地域の食生活・食習慣の課題解決を目指すヘルスプロモーションの推進と、それを基盤として形成される地域包括ケアシステム	事前学習：参考書、多様な情報源を活用し予習を行う。（1時間） 事後学習：授業内容を復習し、文献を活用して、自己の考えを整理し課題を明確にする。（1時間）

回数 担当	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
14 近藤・ 山部	地域の食生活と関わるに関する健康課題に対する看護職・管理栄養士の支援の実際	1. 農業・酪農を主産業とする地域の食習慣を含む健康課題への支援 2. 水産業・漁業を主産業とする地域の食習慣を含む健康課題への支援 3. サービス業を中心とする地域の食習慣を含む健康課題への支援	事前学習：参考書、多様な情報源を活用し予習を行う。（1 時間） 事後学習：授業内容を復習し、文献を活用して自己の考えを整理し、課題を明確にする。（1 時間）
15 近藤・ 山部	地域の健康な食と生活を形成するためのヘルスプロモーションを基盤とした地域づくりにおける看護職・管理栄養士としての専門的役割と連携	地域の健康増進・予防活動を担うための看護職と管理栄養士の連携・協働のあり方の検討	事前学習：参考書、多様な情報源を活用し予習を行う。（1 時間） 事後学習：授業内容を復習し、文献を活用して自己の考えを整理し、課題を明確にする。（1 時間）

授業科目	健康増進支援学特論Ⅱ Seminar in Support Science of Health Promotion Ⅱ			担当教員	○山部 秀子 近藤 明代
年次・学期	1 年次・前期			選択・必修	選択
授業形態	講義			単位数	2 単位
研究科ディプロ マ・ポリシー	DP 1	DP 2	DP 3		DP 4
	○	○			
授業目的	少子化が進む超高齢社会の中で、国は将来においても国民が健やかで心豊かに生活できることを目指し、子どもから高齢者までの各ライフステージにおける健康づくり政策を掲げている。本科目では、地域住民（個人・家族）のライフステージ別の健康課題と健康づくり政策について概観する。また、ヘルスプロモーションの理念をはじめとする諸理論をもとに、実際に地域における健康づくり政策と展開されている地域保健活動を分析し、保健医療専門職である看護師・保健師・管理栄養士に求められる役割と連携・協働における課題について考察する。さらに、地域の住民（個人・家族）の各ライフステージにおける「食」が介在する健康課題をとらえ、フードサービス、栄養マネジメントの役割について教授する。				
到達目標	1. わが国が抱えるライフステージ毎の健康課題を説明できる。 2. ライフステージ毎の政策と地域で展開される地域づくりについて説明できる。 3. 地域で展開されている地域づくり活動をヘルスプロモーションの視点から分析し、活動の課題を説明できる。 4. ライフステージにおける食が介在する健康課題を説明できる。 5. ライフステージにおける食が介在する地域の健康課題を看護職・管理栄養士として解決する方法を説明できる。 6. ライフステージにおける地域の健康課題（食が介在する課題を含む）の解決に向けて、健康な地域づくりを目指し住民と共に行うヘルスプロモーション活動について説明できる。				
テキスト	毎回の授業で配布するレジュメ				
参考書	ローレンス、W。ローレス：実践 ヘルスプロモーション PRECEDE-PROCEED モデルによる企画と評価（医学書院） CBPR 研究会：地域保健に活かす CBPR コミュニティ参加型の活動・実践・パートナーシップ（医歯薬出版株式会社） 厚生労働統計協会：国民衛生の動向・厚生指標 増刊（厚生労働統計協会） 辻一郎：健康寿命社会を実現するー「2025 年問題」と新しい公衆衛生戦力あけの展望ー（大修館書店） 新井宏朋：健康の政策科学 市町村・保健所活動からの政策づくり（医学書院） 青木慎一郎：地域保健福祉の展望 個人の多様性と地域社会をつなぐ（川島書店） 河合美香：健康づくり政策の多角的アプローチ（ミネルヴァ書房） 府川哲夫：保健医療福祉行政論（ミネルヴァ書房） 田多英範：『構成（労働）白書』を読む（ミネルヴァ書房） 自治医科大学地域医療白書編集委員会：地域医療白書第 4 号（学校法人自治医科大学）				
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準		
	レポート	70	レポート 評価基準：		
	ディスカッション	30	1) 教員配分（近藤 50％、山部 50％） 2) 各教員の評価方法 近藤(50％)：課題レポート、提出物、ディスカッション 山部(50％)：課題レポート、提出物、ディスカッション 3) 評価項目の基準 課題レポート：テーマと記述内容の一貫性、全体の論理性、文章表現、私見の具体性等 提出物：課題と内容の一貫性、論理的構成、文章表現、考察等 ディスカッション：事前学習・授業内容を踏まえた内容、参加状況等		
履修上の 留意事項	保健医療福祉に関する動向や法制度の成立などに関する情報を、新聞などのツールを活用して常時把握する。				
回数 担当	学習の主題	授業内容			事前・事後学習
1 近藤	各ライフステージ における健康課題	1. ガイダンス 2. 各ライフステージ（母子、成人・高齢者）に おける健康課題を時代背景と共に概観			事前学習：参考書、多様な情報源を活用し予習を行う。 （1 時間） 事後学習：授業内容を復習し、文献を活用して自己の 考えを整理し課題を明確にする。（1 時間）

回数 担当	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
2 近藤	わが国の子ども・子育て世代への健康政策と保健活動 1	- 母子保健の課題と健康政策の変遷 - 少子社会が抱える子ども・子育て世代を取り巻く社会環境と健康課題 - 子ども・子育て世代の健康政策と母子保健法の改正	事前学習：参考書、多様な情報源を活用し予習を行う。(1 時間) 事後学習：授業内容を復習し、文献を活用して思考を深め、自己の考えを整理し課題を明確にする。(1 時間)
3 近藤	わが国の子ども・子育て世代への健康政策と保健活動 2	- 健やか親子 21 (第二次) のねらいと内容 - 地域における子ども・子育て世代を対象とした取り組みの実際と課題 - 保健医療職(看護師・保健師・管理栄養士)に求められる役割と課題	事前学習：テキスト・参考書、多様な情報源を活用し予習を行う。(1 時間) 事後学習：授業内容を復習し、文献を活用して自己の考えを整理し課題を明確にする。(1 時間)
4 近藤	わが国の成人・高齢者が抱える健康課題と政策 1	- 成人・高齢者を取り巻く社会環境と健康課題の変遷 - 成人・高齢者の健康課題に対応する健康政策の変遷 - 超高齢社会におけるわが国の成人・高齢者の生活と健康 - 超高齢社会における健康課題と健康政策	事前学習：テキスト・参考書、多様な情報源を活用し予習を行う。(1 時間) 事後学習：授業内容を復習し、文献を活用して自己の考えを整理し課題を明確にする。(1 時間)
5 近藤	わが国の成人・高齢者が抱える健康課題と政策 2	- 健康日本 21、健康日本 21 (第二次) の趣旨・経過 - 健康日本 21 (第二次) の内容と評価 - 健康日本 21 (第二次) と他の計画との関係	事前学習：テキスト・参考書、多様な情報源を活用し予習を行う。(1 時間) 事後学習：授業内容を復習し、文献を活用して思考を深め、自己の考えを整理し課題を明確にする。(1 時間)
6 近藤	成人・高齢者の健康づくりを目指した保健活動	- 地域で展開されている食が介在する地域保健活動の実際 - ヘルスプロモーションの視点から地域保健活動を分析 - 地域保健活動における看護職・管理栄養士の役割	事前学習：テキスト・参考書、多様な情報源を活用し予習を行う。(1 時間) 事後学習：授業内容を復習し、文献を活用して思考を深め、自己の考えを整理し課題を明確にする。(1 時間)
7 山部	地域保健における食の介在する健康課題と管理栄養士の役割	- 地域における栄養マネジメント - フードサービスの理論と実際 - 地域保健とフードサービスの役割・課題	事前学習：参考書、多様な情報源を活用し予習を行う。(1 時間) 事後学習：授業内容を復習し、文献を活用して、自己の考えを整理し課題を明確にする。(1 時間)
8 山部	各ライフステージにおける食が介在する健康課題と管理栄養士の支援 1	- 母子と家族の栄養状態と食生活のアセスメント - 母子と家族の栄養状態と食生活の改善計画 - 母子と家族へのフードサービス - 母子と家族への栄養マネジメント	事前学習：テキスト・参考書、多様な情報源を活用し予習を行う。(1 時間) 事後学習：授業内容を復習し、文献を活用して自己の考えを整理し課題を明確にする。(1 時間)
9 山部	各ライフステージにおける食が介在する健康課題と栄養管理士の支援 2	- 勤労する人と家族の栄養状態と食生活のアセスメント - 勤労する人と家族の栄養状態と食生活の改善計画 - 勤労する人と家族へのフードサービス - 勤労する人と家族への栄養マネジメント	事前学習：テキスト・参考書、多様な情報源を活用し予習を行う。(1 時間) 事後学習：授業内容を復習し、文献を活用して自己の考えを整理し課題を明確にする。(1 時間)
10 山部	各ライフステージにおける食が介在する健康課題と管理栄養士の支援 3	- 高齢者と家族の栄養状態と食生活のアセスメント - 高齢者と家族の栄養状態と食生活の改善計画 - 高齢者と家族へのフードサービス - 高齢者と家族への栄養マネジメント	事前学習：テキスト・参考書、多様な情報源を活用し予習を行う。(1 時間) 事後学習：授業内容を復習し、文献を活用して自己の考えを整理し課題を明確にする。(1 時間)
11 山部・近藤	食が介在する健康課題とヘルスプロモーションを踏まえての地域づくり	- ヘルスプロモーションの理念を踏まえた地域づくりによる食が介在する健康課題の解決 - 食が介在する健康課題の解を目指すヘルスプロモーションの理念を踏まえた地域づくりの展開の実際 - ヘルスプロモーションを基盤とした地域づくりと地域包括ケア - ヘルスプロモーションを基盤とした地域づくりとフードサービスの役割	事前学習：テキスト・参考書、多様な情報源を活用し予習を行う。(1 時間) 事後学習：授業内容を復習し、文献を活用して自己の考えを整理し課題を明確にする。(1 時間)

回数 担当	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
12 山部・ 近藤	各ライフステージの食を介在する健康課題と全世代型地域包括ケアシステム	1. 全世代型地域包括ケアシステムの現状と課題 2. 食問題を含む健康課題を予防するための全世代型地域包括ケアシステムの機能 3. 全世代型地域包括ケアシステム下におけるフードサービスの課題と展望	事前学習：テキスト・参考書、多様な情報源を活用し予習を行う。(1 時間) 事後学習：授業内容を復習し、文献を活用して思考を深め、自己の考えを整理し課題を明確にする。(1 時間)
13 山部・ 近藤	全世代型地域包括ケアシステムを形成するための多職種連携	1. 全世代型地域包括ケアシステムを形成する専門職 2. 専門職同士の連携協働 3. 地域住民との連携協働 4. 全世代型地域包括ケアシステムを推進するための連携協働の実態	事前学習：テキスト・参考書、多様な情報源を活用し予習を行う。(1 時間) 事後学習：授業内容を復習し、文献を活用して思考を深め、自己の考えを整理し課題を明確にする。(1 時間)
14 山部・ 近藤	今後の地域包括ケア推進に向けて地域保健医療の機能	1. 地域包括ケア推進における地域保健医療の機能の現状 2. 地域包括ケア推進における地域保健医療の機能の課題と看護職、管理栄養士の役割・機能	事前学習：テキスト・参考書、多様な情報源を活用し予習を行う。(1 時間) 事後学習：授業内容を復習し、文献を活用して思考を深め、自己の考えを整理し課題を明確にする。(1 時間)
15 山部・ 近藤	今後の地域保健医療において看護職・管理栄養士に求められるもの	以下のテーマでディスカッションを行う。 地域包括ケアシステムの構築、推進における看護職、管理栄養士の連携・協働のあり方	事前学習：テキスト・参考書、多様な情報源を活用し予習を行う。(1 時間) 事後学習：授業内容を復習し、文献を活用して思考を深め、自己の考えを整理し課題を明確にする。(1 時間)

授業科目	健康増進支援特別演習Ⅰ Practicum in Support Science of Health PromotionⅠ			担当教員	千葉 仁志 山部 秀子 板垣 康治 百々瀬いづみ	近藤 明代 金高 有里 津久井隆行
年次・学期	1 年次・通			選択・必修	選択	
授業形態	演習			単位数	2 単位	
研究科ディプロマ・ポリシー	DP 1	DP 2	DP 3		DP 4	DP 5
			○		○	○
授業目的	健康増進支援領域の専門科目の学修内容を深化させるとともに、健康の維持増進や病気の予防を目的とする地域保健の視野から、地域に暮らす人々の健康生活の向上に係る関心ある課題について、保健医療学分野における健康増進支援のあり方に焦点を当て、保健医療系の文献の選定、精読、内容検討、グループワーク、討議、プレゼンテーション、フィールドワーク等を通して研究テーマを明確化し、設定することを目的とする。					
到達目標	1. 健康増進支援領域における課題を把握し、増進支援のあり方を探究できる。 2. 健康の増進や病気の予防に係る研究課題に関連する文献を選定できる。 3. 保健医療系文献を選定できる。 4. 選定した文献を精読し、論点について明確に述べることができる。 5. 自ら取り組む研究テーマを明確化できる。 6. 研究テーマに適した研究デザインを構築し、適した研究方法を選択できる。					
テキスト	なし					
参考書	なし					
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準			
	ディスカッション	50	1) ディスカッション：学生自身が関心をもつ健康増進支援領域の課題に係わるディスカッションにおける、参加姿勢、発言の論点、内容の論理性、私見の展開等 2) プレゼンテーション：学生自身が関心をもつ健康増進支援領域の課題に係わるプレゼンテーションにおける、資料の構成・内容の完成度、発表姿勢等			
	プレゼンテーション	50				
履修上の留意事項	1. 健康増進領域における自身の関心を意識して、積極的に情報収集し、研究計画の立案に繋げる姿勢を維持する。 2. 主体的にディスカッションに臨む。					
学修方法	主指導教員から、次の学修計画に基づき教授する。 1. 健康増進支援領域において、学生自身が関心をもつ研究テーマに関連した文献の選定、精読を進める。 2. プレゼンテーションやディスカッションを通して、とくに地域に暮らす人々の健康増進支援の現状と課題についての確な理解を深める。 3. グループワーク等を通して専門科目群での学修内容を深化させ、看護職・管理栄養士の視点からの科学的根拠に基づく支援のあり方について理解を深める。 4. 本演習の学修を通して自ら取り組む研究テーマの意義を検証し、研究テーマの明確化、テーマに相応しい研究デザインの構築、適切な研究方法を検討、選定できる能力を培う。					

授業科目	健康増進支援特別演習Ⅱ Practicum in Support Science of Health PromotionⅡ			担当教員	千葉 仁志 山部 秀子 板垣 康治 百々瀬いづみ	近藤 明代 金高 有里 津久井隆行
年次・学期	2 年次・前期			選択・必修	選択	
授業形態	演習			単位数	2 単位	
研究科ディプロマ・ポリシー	DP 1	DP 2	DP 3		DP 4	DP 5
			○		○	○
授業目的	健康増進支援領域で設定した研究テーマに関連する最新の研究の動向把握と研究の深化に必要な継続的文献検索と精読、プレゼンテーション、討議等の展開を通して、課題解決と論文作成に求められる研究能力を培う。また、研究倫理、適切な研究方法の選択を踏まえて研究計画を策定し、発表会の準備を行う。					
到達目標	1. 健康増進支援領域で自ら設定した研究テーマに係る最新の研究の動向を説明できる。 2. 自ら設定した研究テーマについて、専門分野における意義と目的を説明できる。 3. 領域に係る課題の解決と研究の深化に必要な文献を選定できる。 4. 文献の精読を通し、論点を整理し、論理的に説明できる。 5. 修士論文作成のための研究遂行に求められる研究倫理ガイドラインを厳守し、倫理的な配慮を行うことができる。 6. 適切な対象の選定、研究方法を踏まえた研究計画を策定できる。 7. 修士論文作成のための研究のテーマ、目的、期待される成果の一貫性について、明確に説明できる。					
テキスト	なし					
参考書	なし					
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準			
	ディスカッション	20	1) ディスカッション：研究テーマに関連した課題に係わるディスカッションにおける、参加姿勢、発言の論点、内容の論理性、私見の展開等 2) プレゼンテーション：研究テーマに関連した課題に係わるプレゼンテーションにおける、発表資料の構成・内容の完成度、発表姿勢等 3) 研究計画書：研究倫理ガイドラインを厳守した倫理的な配慮、適切な研究方法、研究テーマ、目的、成果の一貫性			
	プレゼンテーション	20				
	研究計画書	60				
履修上の留意事項	1. 健康増進支援領域における自身の関心を意識して、積極的に課題や事例の情報収集に努め、研究計画の立案に繋げる。 2. 主体的にディスカッションに臨む。					
学修方法	主指導教員から、文献の選定、精読、プレゼンテーション、グループワーク等の展開を通し、次の学修計画に基づき論文作成に必要な研究能力の修得を図り、教授する。 1. 健康増進支援特別演習Ⅰで設定した研究テーマに関連する文献の継続的な選定、精読から、最新の研究動向を把握し、研究テーマの深化を図る。 2. 研究テーマに対応した適切な研究デザイン、研究方法、研究対象・フィールドを検証するとともに、研究遂行に求められる倫理的配慮と手続きについて教授する。 3. 修士論文作成のための研究遂行の具体的計画を策定する。 4. 研究テーマ、目的、想定される成果を含め、修士論文作成のための研究計画に関わる発表会の準備を行う。					

授業科目	健康増進支援特別研究 Research in Support Science of Health Promotion			担当教員	千葉 仁志 山部 秀子 板垣 康治 百々瀬いづみ	近藤 明代 金高 有里 津久井隆行
年次・学期	2 年次・通			選択・必修	選択	
授業形態	実習			単位数	6 単位	
研究科ディプロマ・ポリシー	DP 1	DP 2	DP 3		DP 4	DP 5
			○		○	○
授業目的	地域に暮らす生活者を主な対象とし、健康増進支援領域における関心ある課題に焦点を当てて設定した研究テーマについて、策定した研究計画に基づき、適切な研究方法を用いて研究を行う。倫理審査、調査、データ整理、分析、考察等の一連の研究過程を通し、学位論文を作成する。					
到達目標	1. 健康増進支援領域において自から関心ある研究課題を設定し、適切な方法論を用いた研究計画に基づき研究を遂行できる。 2. 倫理審査の手続きを行い、対象者への倫理的な配慮の元に研究を遂行できる。 3. 研究計画に基づきデータを収集し、分析できる。 4. 研究結果を明確に記述でき、関連する文献を活用して考察できる。 5. 研究成果を学位論文としてまとめ、発表することができる。					
テキスト	なし					
参考書	なし					
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準			
	研究計画・プロセス	10	1) 研究計画・プロセス：研究方法、倫理的配慮の適切性、研究計画に準じた研究のプロセス 2) 研究成果・最終試験（口頭試問）：学位論文の審査基準、最終試験の評価基準 3) 研究発表：資料の完成度、発表姿勢			
	研究成果・最終試験（口頭試問）	80				
	研究発表	10				
履修上の留意事項	1. 学位論文作成のための取組を継続的に行うことが重要である。 2. 研究テーマに関連する文献の精読に努め、理論と研究方法の両面を深化させるように努める。					
学修計画	主指導教員から研究指導の基本計画に基づき、以下のとおり教授する。 1. 健康増進支援領域において自ら関心ある研究テーマについて協議、決定 2. 研究テーマに関わる先行研究の整理、仮説の設定 3. 研究方法の検討、文献の検索、選定、精読、 4. 研究倫理ガイドラインに基づく倫理的な配慮の手続きの実行 5. 学位論文研究計画書の作成、提出、公表 6. 研究の遂行、データ収集及び解析、関連文献調査 7. 研究経過に関わる中間報告の実施 8. 学位論文の作成、提出 9. 学位論文の発表					

授業科目	健康医療科学特論 Seminar in Health and Medical Sciences			担当教員	千葉 仁志
年次・学期	1 年次・前期			選択・必修	選択
授業形態	講義			単位数	2 単位
研究科ディプロマ・ポリシー	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5
	○	○			
授業目的	各ライフステージに応じた生涯を通じた保健医療サービスをを進めるには、専門職者である看護師・保健師・管理栄養士が、サービス対象者のライフステージや健康状態に対応する生理学的・栄養代謝学的特徴に関する知識を持ち、それが成長・発達・成熟・加齢や生活習慣によりどのように影響されるかを正しく理解する必要がある。本特論では、ライフステージごとの健康課題に深く関連する生理学的・栄養代謝学的特徴を、分子・細胞・臓器・器官系の各レベルで解説する。さらに、加齢、生活習慣、疾患・病態の影響や合併症に関して解説する。また、保健医療サービスの実践において重要である、症状・徴候の医科学的判断・評価の実際について、特に生活習慣病予防を視野に入れながら解説する。その学修を踏まえ、健康の決定因子の科学的理解に基づく保健医療専門職者としてヘルスプロモーションへの寄与のあり方を論じる。				
到達目標	1. 心身のライフステージを通じた変化について分子・細胞レベルで説明できる。 2. 心身のライフステージを通じた変化について臓器・器官系レベルで説明できる。 3. 以下の各ライフステージにおける生理学的・栄養代謝学的特徴、成長・発達・成熟・加齢の影響、各ライフステージにおける健康課題とそれに関連する症状・徴候とその評価法について説明できる。 1) 妊娠出産期 2) 乳幼児期（0～5 歳） 3) 学童期（6～11 歳） 4) 思春期（12～17 歳） 5) 青年期（18～35 歳） 6) 壮年期（40～64 歳） 7) 高齢期（前期、65～74 歳） 8) 高齢期（後期、75 歳～） 4. 加齢の健康への影響、保健医療上の課題と対策について説明できる。 5. 生活習慣の健康への影響、保健医療上の課題と対策について説明できる。 6. 疾患・病態の健康への影響、保健医療上の課題と対策について説明できる。 7. 生活習慣病の合併症、症状・徴候の医科学的判断・評価の実際について説明できる。 8. 生涯を通じた保健医療サービスの在り方、教育・研究に係る倫理、他者との連携・協働について考察できる。				
テキスト	授業で配布するレジュメ				
参考書	稲山貴代 小林三智子 編著「ライフステージ栄養学」（建帛社） 金川克子編 公衆衛生看護活動論①ライフステージの特性と保健活動（最新 保健学講座）（メジカルフレンド社）				
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準		
	レポート	80	レポート：授業で出される 8 つの課題について、レポート（ワード A4 版で 2 頁程度の分量）を作成し、次回の授業までにメールで提出する。課題の要求に対して複数文献を調査・引用し、情報を収集・分析し、自らの意見を加えて（5 点満点）、言語表現上（3 点満点）、及び小論文としての形式上（2 点満点）も適切であるかを評価する（各レポート 10 点満点、計 80 点満点）。 授業態度：各授業において自らの意見（各 5 点）を積極的に述べる学生や、熱心に質問（各 5 点）をする学生に対しては、授業態度について評価点を与える（全 15 回で最大 20 点満点）。 ディプロマ・ポリシーに則り、①自己の専門分野および関連分野に関する高度で体系的な知識・技術を修得し、それらを保健医療の実践に活用し展開できる能力を有しているか、②保健医療における看護と栄養の実践、および教育・研究に係る倫理を幅広く理解し、適用できる能力を有しているか、③複雑化・多様化する保健医療の場において、他者と連携・協働し、課題解決に向けて主体的に対応できる能力を有しているかについて評価する。		
	授業態度	20			
履修上の留意事項	消極的な姿勢で本科目の授業に参加しても、評価基準の関係で高い評価を得ることができません。毎回、積極的な姿勢で授業参加してください。				
回数担当	学習の主題	授業内容		事前・事後学習	
1	ライフステージの変化（1）	ライフステージにおける心身の分子・細胞レベルの特徴と変化について学ぶ。		事前に配布するレジュメ、テキスト・参考書の指定頁、各自で収集したネット情報などを用いて予習 2 時間、復習 2 時間の学習を行う。	
2	ライフステージの変化（2）	ライフステージにおける心身の臓器・器官系レベルの特徴と変化について学ぶ。		事前に配布するレジュメ、テキスト・参考書の指定頁、各自で収集したネット情報などを用いて予習 2 時間、復習 2 時間の学習を行う。	

回数 担当	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
3	妊娠出産期の健康と保健	妊娠出産期の生理学的・栄養代謝学的の特徴、成長・発達・成熟・加齢の影響、健康課題とそれに関連する症状・徴候とその評価方法について学ぶ。	事前に配布するレジュメ、テキスト・参考書の指定頁、各自で収集したネット情報などを用いて予習2時間、復習2時間の学習を行う。
4	乳幼児期の健康と保健	乳幼児期の生理学的・栄養代謝学的の特徴、成長・発達・成熟・加齢の影響、健康課題とそれに関連する症状・徴候とその評価方法について学ぶ。	事前に配布するレジュメ、テキスト・参考書の指定頁、各自で収集したネット情報などを用いて予習2時間、復習2時間の学習を行う。
5	学童期の健康と保健	学童期の生理学的・栄養代謝学的の特徴、成長・発達・成熟・加齢の影響、健康課題とそれに関連する症状・徴候とその評価方法について学ぶ。	事前に配布するレジュメ、テキスト・参考書の指定頁、各自で収集したネット情報などを用いて予習2時間、復習2時間の学習を行う。
6	思春期の健康と保健	思春期の生理学的・栄養代謝学的の特徴、成長・発達・成熟・加齢の影響、健康課題とそれに関連する症状・徴候とその評価方法について学ぶ。	事前に配布するレジュメ、テキスト・参考書の指定頁、各自で収集したネット情報などを用いて予習2時間、復習2時間の学習を行う。
7	青年期の健康と保健	青年期の生理学的・栄養代謝学的の特徴、成長・発達・成熟・加齢の影響、健康課題とそれに関連する症状・徴候とその評価方法について学ぶ。	事前に配布するレジュメ、テキスト・参考書の指定頁、各自で収集したネット情報などを用いて予習2時間、復習2時間の学習を行う。
8	壮年期の健康と保健	壮年期の生理学的・栄養代謝学的の特徴、成長・発達・成熟・加齢の影響、健康課題とそれに関連する症状・徴候とその評価方法について学ぶ。	事前に配布するレジュメ、テキスト・参考書の指定頁、各自で収集したネット情報などを用いて予習2時間、復習2時間の学習を行う。
9	高齢期（前期）の健康と保健	高齢期（前期）の生理学的・栄養代謝学的の特徴、成長・発達・成熟・加齢の影響、健康課題とそれに関連する症状・徴候とその評価方法について学ぶ。	事前に配布するレジュメ、テキスト・参考書の指定頁、各自で収集したネット情報などを用いて予習2時間、復習2時間の学習を行う。
10	高齢期（後期）の健康と保健	高齢期（後期）の生理学的・栄養代謝学的の特徴、成長・発達・成熟・加齢の影響、健康課題とそれに関連する症状・徴候とその評価方法について学ぶ。	事前に配布するレジュメ、テキスト・参考書の指定頁、各自で収集したネット情報などを用いて予習2時間、復習2時間の学習を行う。
11	加齢と保健	加齢の健康への影響と保健医療上の課題と対策について学ぶ。	事前に配布するレジュメ、テキスト・参考書の指定頁、各自で収集したネット情報などを用いて予習2時間、復習2時間の学習を行う。
12	生活習慣と保健	生活習慣の健康への影響と保健医療上の課題と対策について学ぶ。	事前に配布するレジュメ、テキスト・参考書の指定頁、各自で収集したネット情報などを用いて予習2時間、復習2時間の学習を行う。
13	疾患・病態と保健	疾患・病態が心身の健康に及ぼす影響、保健医療上の課題と対策について学ぶ。	事前に配布するレジュメ、テキスト・参考書の指定頁、各自で収集したネット情報などを用いて予習2時間、復習2時間の学習を行う。
14	生活習慣病の合併症	生活習慣病の重要な合併症の種類、生成機序、症状・徴候、医科学的判断・評価の実践について学ぶ。	事前に配布するレジュメ、テキスト・参考書の指定頁、各自で収集したネット情報などを用いて予習2時間、復習2時間の学習を行う。
15	生涯を通じた保健医療サービス	生涯を通じた保健医療サービスの在り方、それに伴う教育・研究に係る倫理、他者との連携・協働について、プレゼンテーション、ディスカッションにより考察する。	事前に配布するレジュメ、テキスト・参考書の指定頁、各自で収集したネット情報などを用いて予習2時間、復習2時間の学習を行う。

授業科目	健康再生支援学特論Ⅰ Seminar in Support Science of Health RecoveryⅠ			担当教員	○服部 ユカリ 川口 美喜子
年次・学期	1年次・前期			選択・必修	選択
授業形態	講義			単位数	2単位
研究科ディプロマ・ポリシー	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5
	○	○			
授業目的	超高齢化社会に突入した現在、高齢化に伴う心身機能の低下、認知症等を有する高齢者の尊厳と自立した生活の維持・向上を図るための支援が重要となっている。本科目では、看護実践と栄養実践の基軸となる健康・生活・栄養を焦点に、看護学の視点からは高齢者の心身の健康問題と生活の再生のための支援の基盤となる高齢者の身体的・心理精神的・社会的特徴、高齢者に特化したアセスメント、健康生活への支援について、栄養学の視点からは高齢者の栄養学的問題と専門的支援方法について教授する。具体的には、高齢者に関する諸理論をもとに障害や疾患を有する高齢者のアセスメント方法、健康問題の特徴、高齢者と家族介護者支援、社会生活を維持するための機能向上や再適応等に関する看護支援方法と看護過程の展開、高齢者の栄養・食生活の問題と心身の影響要因について教授する。また、在宅療養者のための社会資源や地域包括ケアシステムおよび訪問看護ステーションや栄養ケアステーションの役割について教授し、看護・栄養の自他職種間および事業所間の連携・協働のあり方と課題について検討する。				
到達目標	1. 高齢者の身体的・心理精神的・社会的特徴について説明できる。 2. 高齢者に関連する諸理論をもとに、障害や疾患を有する高齢者の健康状態のアセスメント方法について説明できる。 3. 高齢者と家族介護者への支援の要点、社会生活を維持するための機能向上や再適応等に関する看護援助の方法について説明できる。 4. 老年症候群による身体的問題、精神・心理的問題、家庭・社会的問題が複合した高齢者の多様な問題を理解し、栄養投与方法やその内容を説明できる。 5. 加齢に伴う摂食嚥下状態と栄養代謝機能の低下に伴う慢性疾患や栄養状態の経過を理解し、栄養治療と食事療法について説明できる。 6. 在宅療養者のための社会資源や地域包括ケアシステムおよび訪問看護ステーションや栄養ケアステーションの役割について説明できる。 7. 看護・栄養の自他職種間および事業所間の連携・協働のあり方と課題について考察し、意見を述べることができる。				
テキスト	なし				
参考書	E.H. エリクソン他著、村瀬 孝雄（訳）「ライフサイクル、その完結、2001」（みすず書房） コルカバ著、太田喜久子訳「コンフォート理論—理論の開発過程と実践への適用、2008」（医学書院） トーンスタム著、冨沢公子訳「老年的超越—歳を重ねる幸福感の世界、2017」（晃洋書房） 山田実「イラストでわかる高齢者の生活機能支援、2017」（文光堂） 高山忠夫監修「いのちの輝きに寄り添うエンパワメント科学、2014」（北大路書房） 秋下雅弘監修「高齢者の患者学“治す”医療から“治し支える”医療へ、2020」（アドスリー） 館村卓「摂食嚥下障害のキュアとケア、第2版、2017」（医歯薬出版）				
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準		
	提出物	30	1) 提出物：毎回の課題の提出状況および内容		
	課題発表	30	2) 課題発表：発表用資料の構成・内容の具体性、発表内容・発表姿勢、質疑応答の内容		
	討議への参加	30	3) 討議への参加：ディスカッションへの参加状況等		
	レポート	10	4) レポート：「看護・栄養の自他職種間および事業所間の連携・協働のあり方と課題」のレポートについて、テーマと記述内容の一貫性、全体の論理性、文章表現、私見の具体性等を評価 ＊ 評価基準の詳細はガイダンス時に提示する		
履修上の留意事項	主題について事前に学修したことを発表し、討論します。また主題について解説し、学修を深めます。				
回数担当	学習の主題	授業内容		事前・事後学習	
1服部	日本における高齢者に関連する課題の概要	社会の変化と高齢者観と保健医療福祉制度の変遷、地域包括ケアシステムについて理解する。		事前：高齢者の定義についてテキストや資料を用いて予習するとともに、高齢者との交流体験等から自身の高齢者観を整理する（2時間）。 事後：授業内容を整理し記録する（2時間）。	
2服部	高齢者の身体的特徴	加齢に伴う身体的変化について学修する。		事前：加齢に伴う身体的変化についてテキストや資料を用いて予習する（2時間）。 事後：授業内容を整理し記録する（2時間）。	
3服部	高齢者の心理精神的特徴	加齢に伴う心理精神的変化・発達課題、老年的超越について学修する。		事前：加齢に伴う心理精神的変化・発達課題についてテキストや資料を用いて予習する（2時間）。 事後：授業内容を整理し記録する（2時間）。	

回数 担当	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
4 服部	高齢者の社会的特徴	社会の中の高齢者の役割・活動および高齢者のための医療・介護・福祉制度について学修する。	事前：社会の中の高齢者の役割・活動および医療・介護・福祉制度についてテキストや資料を用いて予習する（2時間）。 事後：授業内容を整理し記録する（2時間）。
5 服部	老年学関連の諸理論	サクセスフルエイジング、ウエルビーイング、高齢者のQOLについて学修する。	事前：各理論についてテキストや資料を用いて予習する（2時間）。 事後：授業内容を整理し記録する（2時間）。
6 服部	高齢者看護の諸理論	エンパワメント理論、ストレングス理論、コンフォート理論、スピリチュアリティに着目した支援の背景と特徴およびそれらに基づく援助方法を学修する。	事前：各理論についてテキストや資料を用いて予習する（2時間）。 事後：授業内容を整理し記録する（2時間）。
7 服部	高齢者支援の倫理と意思決定支援	支援における倫理と意思決定支援の理念および支援方法について学修する。	事前：支援における倫理と意思決定支援についてテキストや資料を用いて予習する（2時間）。 事後：授業内容を整理し記録する（2時間）。
8 服部	高齢者の健康に関するアセスメント1)	アセスメントのための情報収集方法を理解し、CAG、基本チェックリスト、日常生活自立度判定基準、ロートンのQOL尺度等について活用できるようにする。	事前：各種評価指標についてテキストや資料を用いて予習する（2時間）。 事後：授業内容を整理し記録する（2時間）。
9 服部	高齢者の健康に関するアセスメント2)	BADL評価法(BI、FIM他)、IADL評価法(老研式活動能力指標他)、認知機能評価法(HDS-R、MMSE他)、意欲の評価(VT)について活用できるようにする。	事前：各種評価指標についてテキストや資料を用いて予習する（2時間）。 事後：授業内容を整理し記録する（2時間）。
10 服部	高齢者の食事動作とポジショニング	高齢者が食事を快適に摂取できるためのポジショニングおよび安全な食事のための介助方法を身につける	事前：ポジショニングと食事介助方法についてテキストや資料を用いて予習する（2時間）。 事後：授業内容を整理し記録する（2時間）。
11 川口	高齢者の栄養アセスメント法と栄養補給の考え方について理解する。	加齢に伴う老年症候群によって観察される身体的問題、精神・心理的問題、家庭・社会的の重なった、高齢者の持つ多様な問題を理解し、栄養投与方法や内容を学修する	事前：高齢者の身体的・機能的・心理面的変化について整理する（2時間）。 事後：授業内容を整理し記録する（2時間）。
12 川口	高齢者の栄養状態・機能に応じた栄養治療・食事療法を理解する。	加齢に伴う摂食嚥下状態と栄養代謝機能の低下に伴う慢性疾患や栄養状態の経過を理解し、栄養治療と食事療法について学修する。	事前：高齢者の身体的・機能的・心理面的変化に伴う栄養補給方法について整理する（2時間）。 事後：授業内容を整理し記録する（2時間）。
13 川口	高齢者の暮らしを支える栄養支援のための資源について理解する	高齢者が生活の場で出来るかぎり自立を続けるための地域や医療、介護における栄養支援の資源を学修する。	事前：高齢者のできる限り自立のため、食支援について医療、介護、福祉と繋ぐことができるものを整理する（2時間）。 事後：授業内容を整理し記録する（2時間）。
14 川口	高齢者の自己決定と終末期の栄養支援の在り方について理解する	高齢者に伴うがん、認知症、心不全、透析患者の緩和と終末期の栄養療法と食事管理を学修する。	事前：高齢者の緩和医療、終末期の病態について整理する（2時間）。 事後：授業内容を整理し記録する（2時間）。
15 服部・川口	高齢者の健康回復や生活再生のための看護職と管理栄養士の連携・協働	地域包括ケアを指向して看護職と管理栄養士が高齢者の健康回復と生活の再生や自立を支援するための問題意識の共有、支援や連携・協働のあり方・課題についてディスカッションし、検討する。	事前：講義を踏まえ、高齢者の健康回復や生活再生のための看護職と管理栄養士の問題意識の共有、支援や連携・協働のあり方・課題について整理し発表の準備をする（2時間）。 事後：授業内容を整理し記録する（2時間）。

授業科目	健康再生支援学特論Ⅱ Seminar in Support Science of Health RecoveryⅡ			担当教員	○川口 美喜子 服部 ユカリ
年次・学期	1 年次・前期			選択・必修	選択
授業形態	講義			単位数	2 単位
研究科ディプロマ・ポリシー	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5
	○	○			
授業目的	人口減少、少子高齢化が進展する日本において、医療のあり方は、治すことが中心の医療から、治し支える生活支援型の医療へと転換している。予防の取り組み強化や健康寿命の延伸そして障害や疾患、栄養不良やサルコペニア、認知症に対する包括的なケアを行う生活支援型医療には病院と介護施設、在宅医療を切れ目なく繋ぐ地域と病院の関りが重要である。医療と介護を切れ目なく人々や患者を支えるためには、生活の基本となる栄養アセスメントと身体的・心理精神的・社会的統合体としての生活支援を修得した栄養と看護の専門職の相互理解と連携が必要である。本科目では、栄養は身体的・心理・社会的統合体である人間（全人的生活体）の理解を深めたうえでの予防、病態と栄養代謝や機能に対応した栄養アセスメント法と食の支援を修得し、看護は看護過程にライフステージと病態における栄養状態の評価方法と栄養管理を理解し、人々の QOL 向上を目指した食環境、食生活の支援を修得する。栄養と看護の役割を理解し、人々の切れ目のない生活支援のために栄養と看護の連携・協働のあり方と課題を検討する。				
到達目標	1.対象者の健康上の問題や課題を見極める解決法を計画し提供する栄養アセスメントの特徴を理解し説明できる。 2.栄養と看護の連携・協働も考慮した栄養スクリーニング・評価から栄養計画の立案について説明できる。 3.医療施設と地域・在宅における栄養について看護の実践に向けての特徴も考慮した連携に視点をもつことを修得し説明できる。 4.生活習慣病、精神疾患、認知症、がんについて医療と在宅における栄養モニタリング、栄養管理の栄養ケアプロセスを説明できる。 5.高齢者の疾患と終末期患者に対する栄養について看護との連携・協働も考慮した栄養支援の視点について修得し説明できる。 6.医療・介護・地域を繋ぎ、地域包括ケア・地域共生社会における栄養アセスメントと看護実践も考慮した連携・協働を説明できる。 7.認知症の病態と症状の特徴および認知症による食事関連動作の障害と栄養障害を含む生活障害について説明できる。 8.認知症がある人とその介護家族が生活へ再適応するための支援について説明できる。				
テキスト	中島紀恵子他監修「認知症の人びとの看護、第3版、2017」（医歯薬出版） 川口美喜子他 「がん専任栄養士が患者さんの声を聞いてつくった73の食事レシピ 看護ワンテマBOOK 2011」（医学書院）				
参考書	亀井智子編「認知症高齢者のチーム医療と看護、2017」（中央法規出版） 寛裕介「認知症世界の歩き方、2021」（ライツ社） 2002-2005 ケアと環境研究会「認知症高齢者への環境支援のための指針 PEAP 日本版3」 寺本房子、前田佳子他編著「演習で学べる 在宅栄養支援、2020」（建帛社） 小西敏郎、森本修三、小城明子編集「高齢者がん治療エビデンス＆プラクティス、2018」（南江堂）				
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準		
	提出物	50	1.提出物：課題の提出状況および内容		
	発表	20	2.課題発表：発表用資料の構成・内容の具体性、発表内容・発表姿勢、質疑応答の内容		
	討議への参加	30	3.討議への参加：ディスカッションへの参加状況等		
			4.レポート：「高齢者のがん終末期の栄養療法」についてがん病態と加齢に伴う影響の総合的な評価と実践に向けての視野をもち、テーマと記述内容の一貫性、全体の論理性、文章表現、私見の具体性等を評価 ＊ 評価基準の詳細はガイダンス時に提示する		
履修上の留意事項	主題について事前に学修し発表する方法で行います。				
回数担当	学習の主題	授業内容		事前・事後学習	
1 川口	栄養管理プロセスと看護の栄養ケア過程の特徴	栄養管理プロセスと看護過程の思考の道筋の特徴を理解する		事前・事後：資料から栄養管理プロセスについて理解する（1時間・2時間）	
2 川口	高齢者の疾患・病態等の栄養管理プロセスと看護の栄養ケア過程	高齢化の進展に伴う老年症候群による栄養代謝・機能低下（摂食嚥下機能・消化機能・免疫機能）等の特徴に応じた栄養アセスメントおよび看護過程との関係を学修する。		老年症候群による栄養代謝・機能低下について予習する（2時間） 事後：授業内容を整理し記録する（2時間）	
3 川口	事例検討：高齢低栄養患者入院患者の栄養管理プロセス	高齢入院患者の栄養状態と生活上の問題について栄養と看護実践方法も考慮した視点におけるアセスメントを学修する。		事前・事後：高齢者の栄養アセスメントを整理し記録する（2時間）	

回数 担当	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
4 川口	慢性疾患（糖尿病・腎疾患・循環器疾患等）の栄養状態の特徴と栄養管理プロセス	栄養アセスメントに基づく慢性疾患の栄養管理プロセス（食事療法の特徴と栄養支援）について学修する。	事前：慢性疾患の病態について予習する（2時間） 事後：授業内容を整理し記録する（2時間）
5 川口	精神疾患（特に認知症、アルコール依存症、統合失調症）の栄養状態の特徴と栄養管理プロセス	栄養アセスメントに基づく精神疾患の栄養管理プロセス（食事療法の特徴と栄養支援）について学修する。	事前：精神疾患の病態について予習する（2時間） 事後：授業内容を整理し記録する（2時間）
6 川口	がん疾患の病期における栄養状態、栄養管理プロセス	がん患者の病期における緩和ケアとしての栄養管理プロセスについて看護実践方法も考慮した特徴を修得する。	事前：がん患者の病期について事前に整理する（1時間） 事後：授業内容を整理し記録する（2時間）
7 川口	事例検討：がん患者の病期における栄養管理プロセスの実際を修得する。	がん患者の病期における栄養管理プロセスを看護の実践も考慮した事例を修得する。	事前：がん患者の治療と生活、病態、心理面について資料から予習する（2時間） 事後：授業内容を整理し記録する（2時間）
8 川口	緩和ケアと終末期（がん・認知症・心不全）の病態、栄養状態と栄養管理プロセスの特徴と栄養支援の方法を学修する。	終末期（がん・認知症・心不全）の栄養状態と栄養管理プロセスの特徴と栄養支援の方法を学修する。	事前・事後：終末期医療について授業内容を整理し記録する（2時間）
9 川口	医療機関から施設、在宅医療に繋ぐ栄養情報伝達と地域・多職種連携について学修する。	医療及び介護の提供体制がニーズに見合った切れ目ないサービスが効率的に提供されるための地域連携と栄養情報伝達の課題と方策を学ぶ。	事前：医療機関、施設、テキストや資料を用いて予習する（2時間） 事後：授業内容を整理し記録する（2時間）
10 川口	地域包括ケア・地域共生社会における栄養アセスメントと看護過程の連携・協働を教授する。	疾病予防の取り組み強化や健康寿命の延伸そして障害や疾患、栄養不良やサルコペニア、認知症と共存しながら包括的なケアによって生活の質（QOL）の維持・向上を図るための栄養と看護の連携について学修する。	事前：地域共生社会について総合的に資料から予習する（2時間） 事後：授業内容を整理し記録する（2時間）
11 服部	認知症の原因疾患と病態・生活障害	認知症の原因疾患とそれぞれの病態の特徴および認知症によって生じる食事関連動作の障害と栄養障害を含む生活障害について学修する。	事前：認知症の原因疾患と病態・生活障害についてテキストや資料を用いて予習する（2時間） 事後：授業内容を整理し記録する（2時間）
12 服部	認知症がある人の心理・精神的特徴	認知症がある人の心理・精神的特徴を理解し、認知症当事者のニーズをアセスメントする方法について学修する。	事前：認知症がある人の心理・精神的特徴についてテキストや資料を用いて予習する（2時間） 事後：授業内容を整理し記録する（2時間）
13 服部	認知症がある人の生活への再適応と支援	認知症がある人が、それぞれの生活へ再適応するための方法および支援について学修し、さらに食事方法の工夫を含む支援を修得する。	事前：認知症がある人の生活への再適応と支援についてテキストや参考書（PEAP 日本語版 3）等を用いて予習する（2時間） 事後：授業内容を整理し記録する（2時間）
14 服部	認知症がある人の家族介護者の課題および社会資源の活用	認知症がある人の家族介護者の介護状況・心理・ニーズを理解し、支援の方法や社会資源の活用について学修する。	事前：認知症がある人の家族/介護者に特有の課題および社会資源についてテキストや資料を用いて予習する（2時間） 事後：授業内容を整理し記録する（2時間）
15 川口・服部	医療・介護の栄養管理・ケアと看護過程の特徴と連携・協働の在り方を学修し発表する。	人々の健康予防、疾病の治療、終末期のケアを栄養アセスメントと看護過程の特徴を理解し、連携のあり方や課題についてディスカッションし検討する。	事前：1～14回の授業の記録を学習する（2時間） 事後：授業内容を整理し記録する（2時間）

授業科目	健康再生支援特別演習Ⅰ Practicum in Support Science of Health RecoveryⅠ			担当教員	服部 ユカリ 川口 美喜子 大日向 輝美	藤井 瑞恵 岡本 智子 首藤 英里香
年次・学期	1 年次・通			選択・必修	選択	
授業形態	演習			単位数	2 単位	
研究科ディプロマ・ポリシー	DP 1	DP 2	DP 3		DP 4	DP 5
			○		○	○
授業目的	健康再生支援領域の専門科目の学修内容を深化させるとともに、健康回復や増悪防止を目的とする保健医療の視野から、健康障害をもつ人々の健康回復と生活の再生の支援および専門職教育に係る関心ある課題について、看護学あるいは栄養学に焦点を当て、保健医療系の文献の選定、精読、内容の検討、グループワーク、討議、プレゼンテーション、フィールドワーク等を通して研究テーマを明確化し、設定する。					
到達目標	1. 健康再生支援領域における課題を把握し、再生支援のあり方を探究できる。 2. 健康の回復と生活の再生支援に係る課題・事例に関連する文献を選定できる。 3. 選定した文献を精読し、論点について明確に述べることができる。 4. 自ら取り組む研究テーマの明確化し、説明できる。 5. 研究テーマに適した研究デザインを構築し、適した研究方法を選択できる。					
テキスト	なし					
参考書	なし					
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準			
	ディスカッション	50	1) ディスカッション：学生自身が関心をもつ健康再生支援領域の課題に係わるディスカッションにおける、参加姿勢、発言の論点、内容の論理性、私見の展開等 2) プレゼンテーション：学生自身が関心をもつ健康再生支援領域の課題に係わるプレゼンテーションにおける、資料の構成・内容の完成度、発表姿勢等			
	プレゼンテーション	50				
履修上の留意事項	1. 健康再生支援領域における自身の関心を意識して、積極的に課題や事例の情報収集に努め、研究計画の立案に繋げる。 2. 主体的にディスカッションに臨む。					
学修方法	主指導教員から、次の学修計画に基づき教授する。 1. 健康再生支援領域において、学生自身が関心をもつ研究テーマに関連した文献の選定、精読を進める。 2. プレゼンテーションやディスカッションを通して、とくに地域に暮らす人々の健康再生支援の現状と課題の的確な理解を深める。 3. グループワーク等を通して専門科目群での学修内容を深化させ、看護職・管理栄養士の視点からの科学的根拠に基づく支援のあり方について理解を深める。 4. 本演習の学修を通して自ら取り組む研究テーマの意義を検証し、研究テーマの明確化、テーマに相応しい研究デザインの構築、適切な研究方法を検討、選定できる能力を培う。					

授業科目	健康再生支援特別演習Ⅱ Practicum in Support Science of Health Recovery Ⅱ			担当教員	服部 ユカリ 川口 美喜子 大日向 輝美	藤井 瑞恵 岡本 智子 首藤 英里香
年次・学期	2 年次・前期			選択・必修	選択	
授業形態	演習			単位数	2 単位	
研究科ディプロマ・ポリシー	DP 1	DP 2	DP 3		DP 4	DP 5
			○		○	○
授業目的	健康再生支援領域で設定した研究テーマに関して、最新の研究の動向把握と研究の深化に必要な継続的文献検索と精読、プレゼンテーション、討議等の展開を通して、課題解決と論文作成に求められる研究能力を培う。また、倫理的配慮、適切な研究方法の選択を踏まえて研究計画を策定し、発表会の準備を行う。					
到達目標	1. 健康再生支援領域で自ら設定した研究テーマに係る最新の研究の動向を説明できる。 2. 自ら設定した研究テーマについて、専門分野における意義と目的を説明できる。 3. 領域に係る課題の解決と研究の深化に必要な文献を選定できる。 4. 文献の精読を通し、論点を整理し、論理的に説明できる。 5. 修士論文作成のための研究遂行に求められる研究倫理ガイドラインを厳守し、倫理的な配慮を行うことができる。 6. 適切な対象の選定、研究方法を踏まえた研究計画を策定できる。 7. 修士論文作成のための研究のテーマ、目的、期待される成果の一貫性について、明解に説明できる。					
テキスト	なし					
参考書	なし					
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準			
	ディスカッション	20	1) ディスカッション：研究テーマに関連した課題に係わるディスカッションにおける、参加姿勢、発言の論点、内容の論理性、私見の展開等 2) プレゼンテーション：研究テーマに関連した課題に係わるプレゼンテーションにおける、発表資料の構成・内容の完成度、発表姿勢等 3) 研究計画書：研究倫理ガイドラインを厳守した倫理的な配慮、適切な研究方法、研究テーマ、目的、成果の一貫性			
	プレゼンテーション	20				
	研究計画書	60				
履修上の留意事項	1. 健康再生支援領域における自身の関心を意識して、積極的に課題や事例の情報収集に努め、研究計画の立案に繋げる。 2. 主体的にディスカッション、プレゼンテーションに臨む。					
学修方法	主指導教員から、文献の選定、精読、プレゼンテーション、グループワーク等の展開を通し、次の学修計画に基づき論文作成に必要な研究能力の修得を図り、教授する。 1. 健康再生支援特別演習Ⅰで設定した研究テーマに関連する文献の継続的な選定、精読から、最新の研究動向を把握し、研究テーマの深化を図る。 2. 研究テーマに対応した適切な研究デザイン、研究方法、研究対象・フィールドを検証するとともに、研究遂行に求められる倫理的配慮と手続きについて教授する。 3. 修士論文作成のための研究遂行の具体的計画を策定する。 4. 研究テーマ、目的、想定される成果を含め、修士論文作成のための研究計画に関わる発表会の準備を行う。					

授業科目	健康再生支援特別研究 Research in Support Science of Health Recovery			担当教員	服部 ユカリ 川口 美喜子 大日向 輝美	藤井 瑞恵 岡本 智子 首藤 英里香
年次・学期	2 年次・通			選択・必修	選択	
授業形態	実習			単位数	6 単位	
研究科ディプロマ・ポリシー	DP 1	DP 2	DP 3		DP 4	DP 5
			○		○	○
授業目的	医療福祉施設や在宅において病気療養中の人々の健康状態の回復、健康生活の再生のための看護支援、栄養管理や食生活支援等における関心ある課題に焦点を当てて設定した研究テーマについて、策定した研究計画に基づき、適切な研究方法を用いて研究を行う。倫理審査、調査、データ整理、分析、考察等の一連の研究過程を通し、学位論文を作成する。					
到達目標	1. 健康再生支援領域において自から関心ある研究課題を設定し、適切な方法論を用いた研究計画を作成できる。 2. 倫理審査の手続きを行い、対象者への倫理的な配慮の元に研究を遂行できる。 3. 研究計画に基づきデータを収集し、分析できる。 4. 研究結果を明確かつ論理的に記述でき、関連する文献を活用して考察できる。 5. 研究の成果を学位論文としてまとめ、発表することができる。					
テキスト	なし					
参考書	なし					
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準			
	研究計画・プロセス	10	1) 研究計画・プロセス：研究方法、倫理的配慮の適切性、研究計画に準じた研究のプロセス 2) 研究成果・最終試験（口頭試問）：学位論文の審査基準、最終試験の評価基準 3) 研究発表：資料の完成度、発表姿勢			
	研究成果・最終試験（口頭試問）	80				
	研究発表	10				
履修上の留意事項	1. 学位論文作成のための取組を継続的に行うことが重要である。 2. 研究テーマに関連する文献の精読に努め、理論と研究方法の両面を深化させるように努める。					
学修計画	主指導教員から研究指導の基本計画に基づき、以下のとおり教授する。 1. 健康再生支援領域において自ら関心ある研究テーマについての協議、決定 2. 研究テーマに関わる先行研究の整理、仮説の設定 3. 研究方法の検討、文献の検索、選定、精読、 4. 研究倫理ガイドラインに基づく倫理的な配慮の手続きの実行 5. 学位論文研究計画書の作成、提出 6. 研究の遂行、データ収集及び解析、関連文献調査 7. 研究経過に関わる中間報告の実施 8. 学位論文の作成、提出 9. 学位論文の発表					